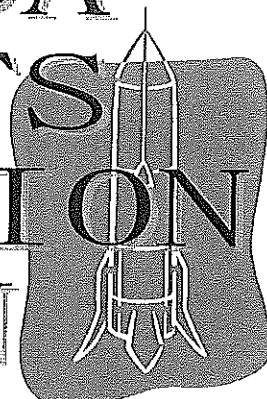


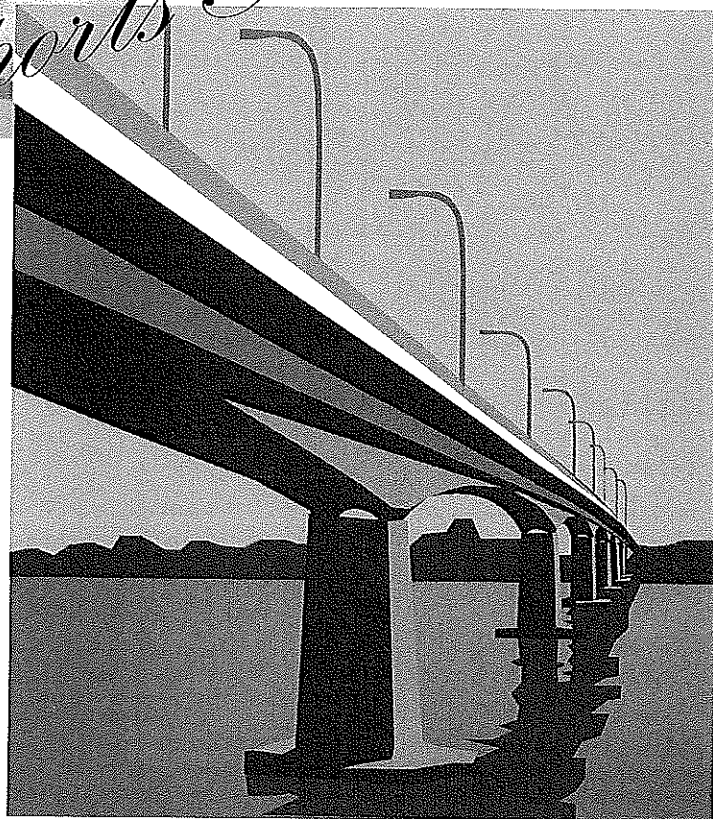
KAKUDA SPORTS PROMOTION PLAN



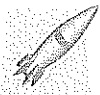
角田市スポーツ推進計画



GO! Sports Kakuda



平成26年3月策定
平成31年3月改定
角田市教育委員会



はじめに（社会的背景と方向性）

角田市は、阿武隈山系の北側に広がる伊具盆地にあり、阿武隈川に育まれた肥沃で豊かな自然に恵まれ、また、貴重な歴史資源を有した温暖な田園都市であります。昭和33年人口34,000人で市制を施行しましたが、現在31,500人程で人口減少はもとより、少子高齢化も進展している状況にあります。

さて、本市は昭和60年に、日常的なスポーツ愛好者の増加傾向を踏まえ、近隣地域に先駆け、中央公園内に県内でも大規模で機能性が高い、総合体育館を中心とする体育施設の整備に着手し、市民誰もが体力に応じたスポーツ活動が気軽にできる施策を展開してまいりました。具体的には、市民のスポーツ・レクリエーション活動への参加促進を図るため、阿武隈リバーサイドマラソン大会をはじめ、こどもリレーカーニバルなどの行事や各種スポーツ大会及びスポーツ教室を開催し、また、スポーツ指導者の育成や情報の提供を行い、市民スポーツや健康づくりへの関心を高めながら、楽しく心豊かな生活ができるよう努めてまいりました。

しかし、世界的な不況により先が見えない社会情勢になり、加えて人口減少・少子高齢化が進み、このままでは、地域産業の低迷や地域社会の活力の低下など、様々な分野に影響を与えることが懸念されてきました。本市はこのような厳しい社会情勢や財政状況に対応する施策として、「第5次長期総合計画」を策定し新たな改革に鋭意取り組んでいるところであります。

一方、この度、公表された国のスポーツ基本計画により、各地方公共団体もその地域の特性に応じた施策を推進することになりました。生涯スポーツの振興やスポーツの普及発展は青少年の健全育成などの教育対策はもとより、健康対策（肥満対策・医療費対策）、福祉対策（高齢者対策・地域交流対策）、経済対策（雇用促進・内需拡大）などにも効用があることは言うまでもありません。

本市は、これらのことを踏まえ、まちの活性化の一翼を担うべくスポーツ推進計画を策定することにいたしました。これまでの既存の制度や組織も含み、総合的にスポーツに関する施策を検証しながら、「人と地域が輝く田園交流都市」を目指して、豊かなスポーツ文化を創造し、更に成熟させていきたいと考えております。折りしも、常磐自動車道山元ICの開通により、来訪者が増加している状況にあります。スポーツ活動を交流の場と拠点づくりに活用し、併せて、ライフサイクルや少子高齢化などの社会の変化に対応させ、健康で楽しい地域社会を構築したいと考えております。

策定にあたり、貴重なご提言・ご意見を賜りました角田市スポーツ推進審議会委員の皆様をはじめ、市民意識調査にご協力いただきました市民の皆様並びに関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成26年3月策定

角田市教育委員会

国の第2期スポーツ基本計画の策定（平成29年3月）等の社会情勢の変化と、計画の進捗状況（前期期間の評価）を反映するために、平成31年度から平成35年度までの後期5年間の計画を見直すために「第5章アクションプランの基本方針」を追加する等の所要の改定を行います。

平成31年3月改定

角田市教育委員会



はじめに

第1章 計画策定の基本的な考え方

- | | | | |
|---|---------|-----|---|
| 1 | 策定の趣旨 | ・ ・ | 1 |
| 2 | 計画の位置づけ | ・ ・ | 1 |
| 3 | 計画の期間 | ・ ・ | 2 |

第2章 策定にあたっての現状と課題

- | | | | |
|---|---------------------|-----|-----|
| 1 | 角田市のスポーツ基盤と概要 | ・ ・ | 3 |
| 2 | 角田市民のスポーツに対する意識 | ・ ・ | 1 1 |
| 3 | 角田市のスポーツ推進に向けた課題の整理 | ・ ・ | 1 9 |

第3章 推進計画の基本方針と施策の方向性

- | | | | |
|---|-----------|-----|-----|
| 1 | 基本理念 | ・ ・ | 2 5 |
| 2 | 計画の目標と方向性 | ・ ・ | 2 5 |
| 3 | 施策の視点 | ・ ・ | 2 6 |
| 4 | 成果指標 | ・ ・ | 2 7 |
| 5 | 施策の体系図 | ・ ・ | 2 8 |

第4章 推進計画の具体的施策の展開

- | | | | |
|---|--------------------------|-----|-----|
| 1 | ライフステージに応じたスポーツ活動の推進 | ・ ・ | 2 9 |
| 2 | 地域に夢と活力をもたらすスポーツ交流の促進 | ・ ・ | 3 3 |
| 3 | 誰もが快適に親しむことができるスポーツ環境の整備 | ・ ・ | 3 7 |

第5章 アクションプランの基本方針

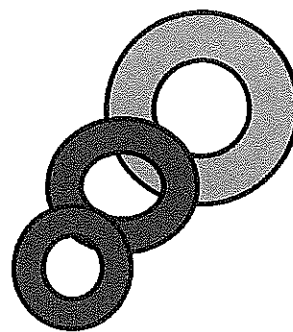
- | | | | |
|---|------------------|-----|-----|
| 1 | 基本的な考え方 | ・ ・ | 4 0 |
| 2 | 前期アクションプランの概要 | ・ ・ | 4 1 |
| 3 | 前期アクションプランの実績と評価 | ・ ・ | 4 4 |
| 4 | 後期アクションプランの概要 | ・ ・ | 4 6 |

第6章 計画の進行管理

- | | | | |
|---|------------|-----|-----|
| 1 | 計画の推進と進行管理 | ・ ・ | 5 0 |
| 2 | 関係部局との連携 | ・ ・ | 5 0 |

第1章 計画策定の基本的な考え方

- 1 策定の趣旨
- 2 計画の位置づけ
- 3 計画の期間



第25回阿武隈リバーサイドマラソン大会より

スポーツ基本法に基づき、角田市の実情に即した、スポーツ推進に関わる総合的かつ長期的な視点による行政活動を体系化した基本計画(マスタープラン)を策定するものです。将来像を明確にし、その実現に向けた道筋を示すもので、目標や具体的方針を定めます。

地方公共団体の責務(スポーツ基本法 第四条)

地方公共団体は基本理念にのっとり、スポーツに関する施策に関し、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。

地方スポーツ推進計画(スポーツ基本法 第十条第一項)

都道府県及び市町村の教育委員会は、スポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツ推進に関する計画を定めるよう努めるものとする。



第1章 計画策定の基本的な考え方

策定の趣旨

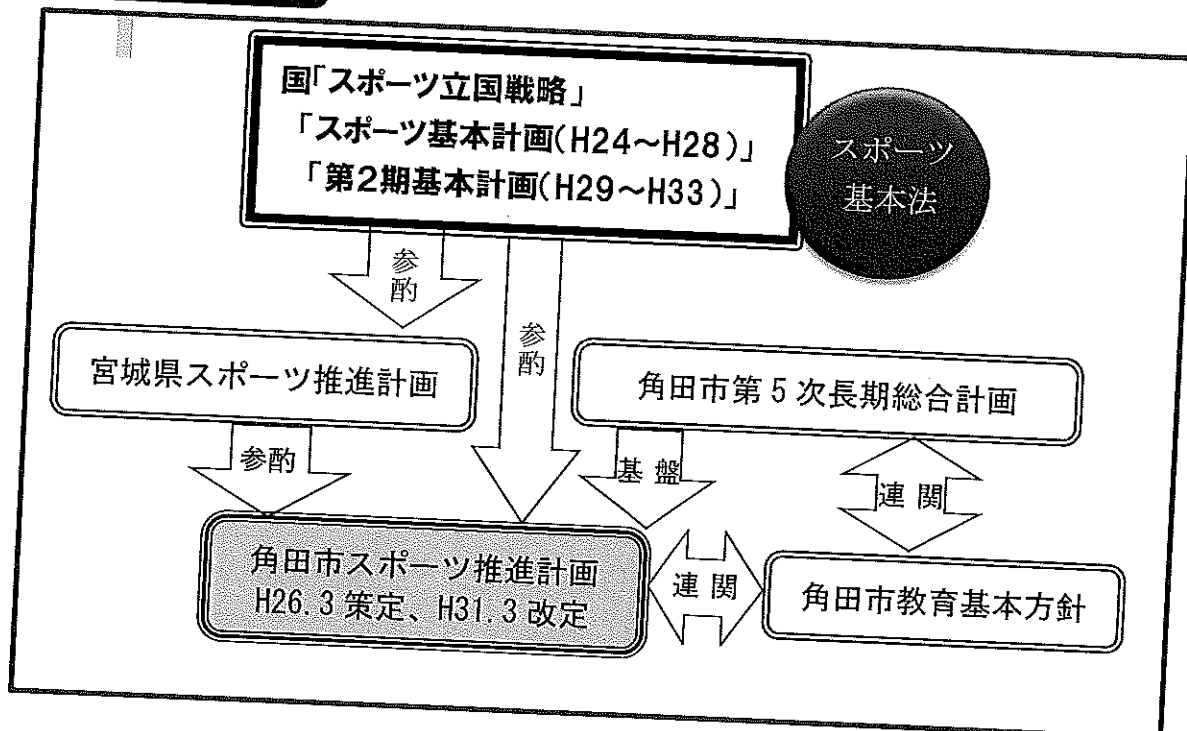
平均寿命が80歳代を迎えた現代において、健康は人生の宝であります。明るく活力に満ちた地域社会の形成や個々の心身の健全な発達を促すためには、生涯にわたりスポーツに親しむことが必要であり、市民一人ひとりの重要な課題でもあります。

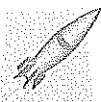
平成22年文部科学省は国が取るべきスポーツ施策の方向性を「スポーツ立国戦略」として示し、その後、平成23年に法制化し「スポーツ基本計画」が策定されました。宮城県においても平成24年12月に「宮城県スポーツ推進計画」が策定されたところであります。

本市はこのような状況を踏まえ、平成23年3月に策定した「角田市第5次長期総合計画」を基盤に、将来における市民スポーツの目指す姿や目標を明らかにし、計画的に進めるため、ここに「角田市スポーツ推進計画」を策定し、総合的に体系化・具現化を図るものであります。

多くの市民が健康づくりやスポーツに親しむとともに、スポーツを通して本市の魅力を内外に発信し、生き生きと躍動するまちづくりを目指します。

計画の位置づけ





第1章 計画策定の基本的な考え方

本計画の策定にあたっては、スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第10条第1項に基づくスポーツの推進に関する計画であり、角田市第5次長期総合計画における基本計画および角田市の生涯スポーツに関する施策に基づき、関係機関が連携を図りながら、総合的にスポーツを推進するために策定するものであります。

本市においてスポーツを推進していくための基本計画であり、競技性の高いスポーツだけでなく、ウォーキングなどの身体を動かす活動や、遊びの要素を取り入れながら行われるレクリエーション等も計画の対象としています。

計画の期間

本計画は、平成26年度から平成35年度までの10年間とします。但し、進捗状況や社会情勢の変化に対応するために、5年後をめどに見直しを図るものとします。

なお、本計画を着実に実行するため、具体的な取組み内容、評価方法を示すアクションプランを別に策定します。

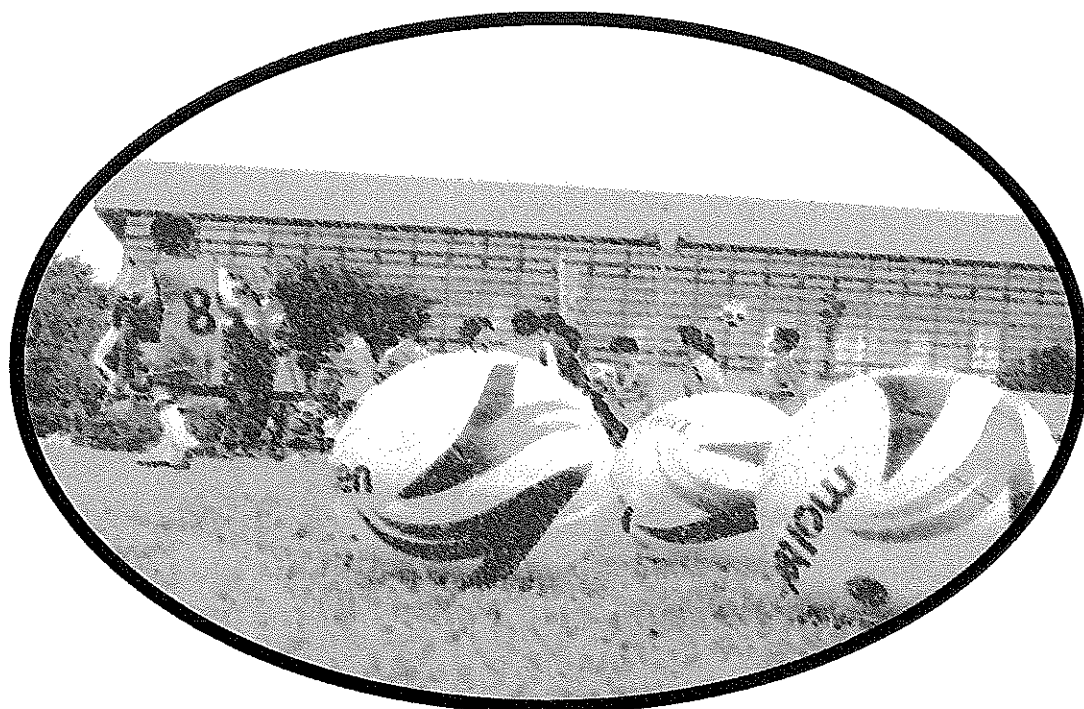
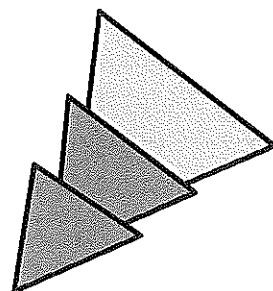
関係法規との関連図

関係法規との期間の関連性

	H.15	H.16	H.17	H.18	H.19	H.20	H.21	H.22	H.23	H.24	H.25	H.26	H.27	H.28	H.29	H.30	H.31	H.32	H.33	H.34	H.35		
国の施策																							
	スポーツ振興基本計画								スポーツ 基本法	スポーツ立国戦略													
	H13～H23									H23～H32													
										スポーツ基本計画				スポーツ基本計画の見直し									
									H.23	H24～H28								H29～H33					
県の施策																							
	スポーツ振興基本計画										スポーツ推進計画												
	H15～H24										H25～H34												
角田市の施策																							
	第5次長期総合計画																						
											前期 H23～H27				後期 H28～H32								
											スポーツ推進計画												
											前期 H26～H30						後期 H31～H35						

第2章 策定にあたっての現状と課題

- 1 角田市のスポーツ基盤と概要
- 2 角田市民のスポーツに対する意識
- 3 角田市のスポーツ推進に向けた課題の整理



みんなのスポーツ教室より

角田市民の生活の実態やスポーツ実施状況、及びスポーツのニーズなどの現状を把握・分析を通して、近未来に向けての政策課題を見つけ出し整理するものです。

このことに基づき、ビジョン(基本理念)を設定し、具体的な施策や取り組む事業を立案します。



第2章 策定にあたっての現状と課題

1. 角田市のスポーツ基盤と概要

角田市における市民のスポーツ活動やスポーツ施設の現状、及び大会やイベントの実際をまとめてあります。現状をよく把握し課題等の整理につなげるものです。

①市内のスポーツ団体の状況

□体育協会

角田市の体育協会は、市内のスポーツ活動やスポーツの普及・振興などを目的として活動しています。スポーツ大会やスポーツ教室の開催を通じて、スポーツの楽しさを提供するとともに、スポーツの情報や指導者の派遣など、市民がスポーツに親しめる機会の充実を図り、健康増進と快適な生活を目指しております。現在19団体941名の方々が登録しています。

○角田市体育協会の構成 (平成24年4月現在)

No.	加盟団体	登録人数	No.	加盟団体	登録人数
1	陸上競技協会	60	11	サッカー協会	20
2	卓球協会	26	12	ソフトボール協会	10
3	バレーボール協会	128	13	バドミントン協会	30
4	野球協会	15	14	射撃クラブ	5
5	ソフトテニス協会	38	15	ゲートボール協会	154
6	水泳協会	23	16	グランドゴルフ協会	45
7	空手道協会	30	17	テニス協会	42
8	柔道協会	39	18	ビニールボール協会	110
9	剣道協会	16	19	太極拳協会	90
10	バスケットボール協会	60	計	19団体	941

□スポーツ少年団

角田市において定例的に活動し、組織的なスポーツ少年団の活動状況は下記のとおりです。僅かでは

○スポーツ少年団活動状況の推移

ありますが、3年の間に7%の減少傾向にあります。子どもにはスポーツの楽しさや習慣化を図る必要があり、スポーツに接する機会を多くするため、多様な要望に応えられる運営が求められています。スポーツを支える育てるためにもスポーツ少年団の指導者に頼るところは大きいものがあります。指導者の養成と質の向上に努めることも普及・発展には欠かせないことです。

種 目	平成22年度			平成23年度			平成24年度		
	登録団体	登録人数	指導者数	登録団体	登録人数	指導者数	登録団体	登録人数	指導者数
1 軟式野球	9	189	47	9	220	49	10	163	45
2 空手道	4	41	14	3	49	12	4	37	10
3 バレーボール	3	30	9	3	37	10	3	31	9
4 柔道	1	27	1	1	29	1	1	23	2
5 水泳	1	39	4	1	47	7	1	35	7
6 サッカー	1	9	2	1	17	4	1	20	4
7 陸上競技	1	8	2	1	12	6	1	13	5
8 剣道	2	16	4	1	10	4	1	7	3
9 バスケットボール	2	61	5	1	46	3	2	68	5
10 バドミントン	3	45	9	4	66	12	2	36	9
11 ソフトテニス	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	27	465	97	25	533	108	26	433	99

□総合型地域スポーツクラブ (スポーツコミュニケーション・かくだ)

角田市には、文部科学省のスポーツ振興計画に基づく事業として、総合型地域スポーツクラブ「スポーツコミュニケーション・かくだ(以下「スポコムかくだ」と言う。)」が平成20年に設立されました。「いつでも・どこでも・誰でも・いつまでも」スポーツを楽しむ社会を実現するため、地域の方々が中心となって運営



しています。子どもから高齢者まで、自分の体力や技術・技能のレベルに応じて、楽しく、継続的にスポーツ活動を行うことができる会費制のスポーツクラブです。現在「みんなのスポーツ教室」「成人スポーツ教室」「スポーツ交流活動」「情報誌の発行」などの活動を行っています。

総合型地域スポーツクラブ(スポコムかくだ)は、関係者の努力もあり参加者数は伸びております。

○総合型地域スポーツクラブ育成事業(みんなのスポーツ教室)の推移

		20	21	22	23	24	25
小学生	男子	140	118	147	166	207	180
	女子	86	76	72	68	115	140
中学生	男子	25	4	9	2	2	2
	女子	28	2	2	2	1	1
計		279	200	230	238	325	323
指導者数		27	27	27	27	27	33

②市内のスポーツ指導者の状況

□スポーツ推進委員

角田市には13名のスポーツ推進委員がいて、地域住民のスポーツ振興のために活動しています。

生涯スポーツに対する関心の高まりや、健康づくりとしてのスポーツの普及をはじめとし、地域のスポーツ大会への派遣依頼に応えるなど(主な活動はルールの説明や審判活動、そして実技指導など)、子どもから高齢者まで多くの方にスポーツの楽しさを知ってもらえるよう、自主的にスポーツに取り組む活動を行っています。

スポーツ基本法の施行により、平成23年8月24日から「体育指導委員」は「スポーツ推進委員」と名称が変更になりました。これからも本市においては、性別や年齢構成を配慮しながら、スポーツ指導者の資格を有し、熱意と能力があり、効果的に連絡調整ができる人材の確保に努める必要があります。

③市内のスポーツイベントの状況

□こどもリレーカーニバル

角田市と丸森町の小学生を対象に「走る」「跳ぶ」「投げる」という陸上競技を通して、子どもたちの基礎体力の向上を図ると共に、スポーツに親しむきっかけになることを目的として開催されています。近年少子化等もあり全体的に参加者は減少しています。特に女子が減少しており、具体的な対策が望まれています。

○こどもリレーカーニバル参加数の推移

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
角田地区	383	376	336	279	286	285
丸森地区	140	135	156	128	128	117
内訳	男子児童	292	282	271	230	238
	女子児童	251	229	221	177	169
栗山町	10					
石川町	10					
計	543	511	492	407	414	402

□阿武隈リバーサイドマラソン大会

角田市民のスポーツやレクリエーションへの参加を促し、スポーツによる地域振興を図るため昭和63年から開催された市最大スポーツイベントであります。選手としての出場だけではなく地域企業や学校・地域住民との連携・協力・協賛・出店・ボランティアなど様々な形で参加や支援体制を組み「おらがまちのイベント」として定着しております。

○阿武隈リバーサイドマラソン大会参加数の推移

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
	第21回	第22回	第23回	第24回	第25回
角田市	376	360	615	651	623
県内	938	1,177	1,299	1,259	1,380
県外	154	175	288	205	286
総計	1,468	1,712	2,202	2,115	2,289

近年参加者が増えており施設やコースの状況を考慮すると、大会規模の限界値に近いと考えられ、運営面での嬉しい課題となっています。

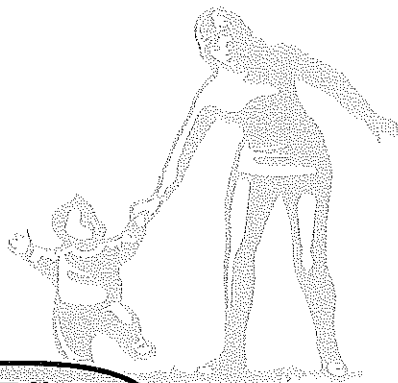


□スポーツレクリエーション祭

角田市民のスポーツ活動への参加意欲を喚起し、生涯を通じてスポーツレクリエーション活動に親しむ生活を目指すとともに、大会を通じて親睦を深めることを目的として開催されています。気軽に参加できる種目(グラウンドゴルフ、ビニール・バレーボール、スローピッチ・ソフトボール、ペタンク)であり、年齢や性別を問わず参加できることから、これからも普及に努めて、できるだけ多くの方々が参加されることを期待しています。なお、上位の大会として管内大会(みやぎヘルシーふるさとスポーツ祭)が設けられており、広く地域の方々との交流が図られる大会として、注目を集めております。

○スポーツ・レクリエーション祭参加数の推移

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
参加チーム数	43	41	45	46	36	45
参加人数	268	375	379	388	284	399



④市内の公共スポーツ施設の設置状況

□公共スポーツ施設の設置状況

角田市は昭和60年、阿武隈河畔の中央公園内に、近隣地域に先駆けて県内でも有数の大規模で機能性の高い体育施設の整備に取り組み、総合体育館を中心とする施設を設置してきました。また、自然の景観や立地条件を活かし、サイクリングロードやパークゴルフ場・ゴルフ場など、市民の誰もが体力や年齢・能力に応じたスポーツ活動が気軽にできる環境の整備に努め、人と人とが繋がりを深めるスポーツ活動の拠点づくりを進めてきました。

近年スポーツは「する」だけではなく「観る」「支える(育てる)」など、関わり方が多様化しています。特に「観るスポーツ」において、プロスポーツやハイレベルなアマチュアスポーツ競技の観戦は、市民に感動や興奮を与え、また、スポーツへの関心を高め、子どもたちには夢を育む要因にもなります。

一方、常磐自動車道山元ICの開設など、周辺都市を結ぶ幹線道路の整備により都市間の距離は短くなってきております。国際大会も開催できる機能を有した総合体育館を中心とする本市の施設の有効活用は、都市間の交流が一層促進されることになり、本市の魅力を他の地域にも発信する貴重な機会にもなります。選手や観客が訪れることで直接的・間接的な経済効果も期待でき、まちの活性化に大いに繋がるものと期待されています。

※なお、市内には民間企業のスポーツ施設として野球場・プール・体育館・テニスコートなどがあり、市民が利用できることもあります。



区分	施設名	施設概要	
体育館	総合体育館	大型1,300㎡以上	
	旧小田小学校体育館	小型720㎡以下	
	体育センター	小型720㎡以下	H.24取壊し
	農業改善センター	小型720㎡以下	H26 スポーツ交流館へ
	自治センター	公民館付属	
プール	屋内温水プール	25mプール	
武道館	柔道場	総合体育館内	
	剣道場	総合体育館内	
陸上競技場	中央公園陸上競技場	公認スタンド付 全天候型8コース 収容人員5,200人	
野球場	中央公園野球場	両翼90mセンター120m収容人員1,016人	
テニスコート	中央公園テニスコート	8面	
	台山公園テニスコート	2面	
ゲートボール	中央公園ゲートボール場	2面	
	台山公園ゲートボール場	2面	
トリムコース	健康体力づくりコース	阿武隈川左岸(高城商店～角田橋)	
遊歩道	中央公園内遊歩道	中央公園内	
サイクルロード	阿武隈右岸サイクル	阿武隈右岸(一部丸森町と併用)	
	阿武隈左岸サイクル	阿武隈左岸(一部丸森町と併用)	
運動広場	中央公園多目的運動場	10,000㎡以上	
	神次郎運動公園	10,000㎡以上	
運動公園	台山公園多目的多目的広場	10,000㎡以上	
	中央公園多目的芝生広場	10,000㎡未満 芝生化	
ゴルフ場	市民ゴルフ場	河川敷 9ホール 3,573ヤード	
	あぶくまパークゴルフ場	河川敷 18ホール 903m パー66	
学校施設	各小中学校体育館	12校	
	各小中学校武道館	4校	
	各小中学校グラウンド	12校	

⑤市内の公共スポーツ施設の利用状況

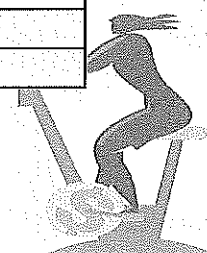
□公共スポーツ施設の利用状況

近年、角田市のスポーツ施設の利用者数は順調に伸びて20万人を超えています。誰もが安全で安心して活動できる施設として整備点検に努めるとともに、老朽化した施設の改修に努める必要があります。

一時的なことです、平成23年度は東日本大震災の影響もあり、放射能対策に対応したプールの利用者数だけは増加しましたが、他のスポーツ施設の利用者数は減少しました。

今後、公共のスポーツ施設においては、更に工夫を凝らし年齢層に合ったスポーツの普及や初心者向けのスポーツ教室を開催し、また、健康志向を促進させ多くの人の参加を促すことが必要です。

加えて、情報の発信や広報活動にも力を入れることもスポーツの推進に繋がることを忘れてはなりません。





○公共スポーツ施設利用状況

施設名		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
中央公園	総合体育館	45,840	50,716	52,293	51,801	45,624	62,386
	アリーナ	30,103	34,587	32,526	34,556	28,280	42,373
	武道場	5,819	5,805	6,734	6,297	6,571	7,608
	トレーニング	8,445	9,082	10,775	9,060	9,047	10,007
	その他	1,473	1,242	2,258	1,888	1,726	2,398
	陸上競技場	25,592	24,474	30,483	29,051	28,433	36,078
	市内	12,158	12,492	7,589	9,647	6,339	6,849
	市外	5,628	4,338	10,463	10,896	9,978	12,348
	団体	7,806	7,644	12,431	8,508	12,116	16,881
	屋内温水プール	56,726	59,790	65,729	65,584	74,039	57,616
	幼児生	18,357	17,549	9,818	10,062	13,325	31,223
	一般	38,369	42,241	55,911	55,522	60,714	26,393
	テニスコート	17,252	17,170	16,284	15,276	12,901	15,178
	ゲートボール場	314	368	471	532	349	282
	野球場	7,046	10,112	8,005	9,057	6,697	13,202
	芝生広場	7,886	7,481	7,205	8,150	9,330	10,984
	多目的運動場	10,468	11,463	10,174	11,962	8,139	13,812
計		171,124	181,574	190,644	191,413	185,512	209,538

□学校体育施設の利用状況

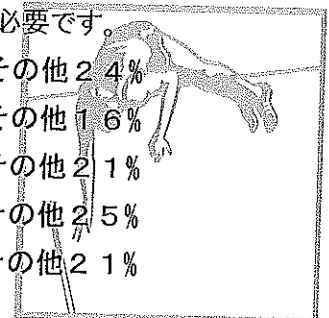
地域住民の健康福祉とスポーツ活動の場として、学校施設を開放しています。近年生活習慣病が問題となっており、予防策として、食生活と運動の重要性が叫ばれています。国の施策として特定健康診査や特定保健指導が始まっていますが、本市においても特に、中高齢者のための「健康・体力づくり運動」の奨励や健康・ウォーキング活動を推奨し様々な取り組みを実施しています。身近な場所で親睦を深めながら、健康の保持増進に努める活動を支援し、推進するためにも学校体育施設の開放事業はこれからも必要とされるものです。

○学校体育施設利用状況

	平成22年度		平成24年度	
	登録数	登録人数	登録数	登録人数
角田小学校	12	183	13	208
横倉小学校	8	128	10	169
枝野小学校	6	90	5	80
藤尾小学校	5	89	4	72
東根小学校	2	21	1	11
桜小学校	5	57	5	58
北郷小学校	7	141	10	147
西根小学校	5	79	6	110
角田中学校	15	278	17	349
金津中学校	3	39	6	118
北角田中学校	5	76	6	90
計	73	1,181	83	1,412

下記の数値は、本市のスポーツ施設を利用している市内外の各種団体のアンケートによる結果です。概ね利用者団体には好評を得ており、これからも利便性を高めることが必要です。

- | | | | |
|-------------|----------|------------|---------|
| ①利用調整の時期と方法 | : 満足 74% | 満足できない 2% | その他 24% |
| ②施設の整備状況 | : 満足 72% | 満足できない 12% | その他 16% |
| ③器具・用具の整備状況 | : 満足 62% | 満足できない 17% | その他 21% |
| ④清掃状況 | : 満足 70% | 満足できない 5% | その他 25% |
| ⑤職員の対応 | : 満足 77% | 満足できない 2% | その他 21% |





□スポーツ交流の状況

角田市のスポーツ施設の利用状況から、スポーツ交流の状況を推察すると、充実したスポーツ施設や自然環境が評判を呼び、近隣の中学校の体育大会や高校において、地区大会はもとより、県大会なども開催されている状況です。本市のスポーツ施設の利用状況は年々増加しており、24年度は年間20万人を超え、5年前より22%増加の傾向にあります。特に市外の方たちの利用数が増加し、総合体育館や陸上競技場においては5年前と比較すると約1.3倍以上の利用状況であります。

これからは、全国規模の大会の誘致や市町村の交流大会、スポーツ合宿の誘致、商工観光課との連携による産業品や地産品などの販売まで、角田市の様々な魅力を発信する場としても活用し、スポーツツーリズムとして推進することが求められてきます。

○公共スポーツ施設利用状況(市内・市外別)

施設名		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
中央公園	総合体育館	45,840	50,716	52,293	51,801	45,624	62,386
	市内	40,330	46,710	45,256	42,219	36,204	52,289
	市外	5,510	4,006	7,037	9,582	9,420	10,097
	陸上競技場	25,592	24,474	30,483	29,051	28,433	36,078
	市内	14,883	15,066	7,589	15,864	13,049	16,980
	市外	10,709	9,408	10,463	13,187	15,384	19,098
	団体貸切			12,431			
	屋内温水プール	56,726	59,790	65,729	65,584	74,039	57,616
	市内	43,175	46,857	51,909	52,468	55,607	44,036
	市外	13,551	12,933	13,820	13,116	18,432	13,580
	テニスコート	17,252	17,170	16,284	15,276	12,901	15,178
	市内			11,962	10,552	7,281	10,276
	市外			4,322	4,724	5,620	4,902
	野球場	7,046	10,112	8,005	9,057	6,697	13,202
	市内	5,878	8,154	6,583	8,292	5,512	11,166
	市外	1,168	1,958	1,422	765	1,185	2,036
	ゲートボール場	314	368	471	532	349	282
	芝生広場	7,886	7,481	7,205	8,150	9,330	10,984
	多目的運動場	10,468	11,463	10,174	11,962	8,139	13,812
	市内計	104,266	116,787	123,299	129,395	117,653	134,747
	市外計	30,938	28,305	37,064	41,374	50,041	49,713
	その他	18,668	19,312	17,850	20,644	17,818	25,078
	計	171,124	181,574	190,644	191,413	185,512	209,538

角田市中央公園内における角田市外の人々が参加している規模の大会

平成24年度	区分	大会数	延べ日数	延べ参加者数
	県大会以上	15	21	9,190
	仙南大会等	29	52	9,903
	複数市町	36	46	14,887
	他市町	5	6	4,611
	合計	85	125	38,591

※屋内温水プールを除く

※スポーツツーリズムについては、P34に詳しく記載してあります。



⑥市内児童・生徒の体力・運動能力の状況

□児童・生徒体力運動能力の推移

新体力テストの結果を見ると、市内の小学生・中学生とも、全国平均を下回っております。全国平均を上回っているのは運動能力面では殆どなく、体格において、体重や座高が上回っている状況です。

文部科学省によりますと、児童・生徒の体力のピークとされている昭和60年ごろと比較すれば、年々回復の状況にあります。依然として低い水準にあります。また、近年は体力の高い子どもと低い子どもの差が拡大され二極化の状況にあります。

運動や遊びの中でスポーツの基本的な動きを身につけさせ、スポーツに積極的に参加し、楽しく続けていくことができるようにすることが重要です。

本市においてはこれまでの取り組みを充実させることは勿論、スポーツに親しむ機会の創出に更に取り組むことが求められております。

は、全国・県より優れている数値

項 目	角田中学校（中2男子）						角田中学校（中2女子）					
	2010年 73名			2012年 64名			2010年 60名			2012年 68名		
	全国	県	角田	全国	県	角田	全国	県	角田	全国	県	角田
身長	160	160	160	160	160	162	155	155	154	155	155	156
体重	49.2	51	51.9	49	49.8	50.6	47.3	49	49.2	47.4	48	49.2
座高	85	85.4	84.5	84.9	85.4	84.2	83.8	84	83.2	83.9	84.2	79.4
握力	30.1	30.3	26.8	29.7	30	28.1	24	24	20.4	24	34.3	23.1
上体起こし	27.5	27.1	27.6	27.6	27.9	23.8	23.1	22.5	24.7	22.8	23.3	20.3
長座体前屈	43.2	43.1	39.7	43.3	42.8	42.1	43.9	43.7	40.8	45	44.9	46.4
反復横とび	51.8	51.5	40.6	51.6	51.7	40.3	45.5	45.1	36.7	45.5	45.4	37
シャトルラン	87.6	82.6	79	86.2	85.5	74.1	59.6	55.4	48.7	57.9	55.3	51.4
50m走	7.92	8.08	8.14	8.01	8.02	8.52	8.78	8.92	8.93	8.87	8.92	9.36
立ち幅跳び	197	194	188	195	193	194	169	164	150	167	164	164
ハンドボール投げ	21.8	20.8	21.3	21.2	20.5	20.3	14	13	13.5	13.1	12.5	13
体力総合点	42	42	37	42	42	36	48	48	42	49	48	42

項 目	角田小学校5年生（男子）						角田小学校5年生（女子）					
	2010年 54名			2012年 53名			2010年 66名			2012年 59名		
	全国	県	角田	全国	県	角田	全国	県	角田	全国	県	角田
身長	139	139	140	139	140	138	140	141	141	140	141	140
体重	34.1	35.1	35.9	34	35.9	34.7	34.1	34.9	35.8	34	35.4	34.6
座高	74.9	75.2	75.4	74.9	75.3	75	75.9	76.1	78	75.8	76.1	79.4
握力	17.2	16.9	17.2	16.7	16.5	18.2	16.9	16.5	16.4	16.2	16.3	18.2
上体起こし	19.9	19.1	18.4	19.4	19.1	19.3	11.1	17.7	18.3	17.9	17.9	18.6
長座体前屈	33	32.5	32.6	32.6	32.2	30.5	36.9	36.8	38	36.7	36.6	33.5
反復横とび	42.7	41.5	40.2	41.6	41.4	38.3	40.2	39.4	39.9	39.2	39.4	36.7
シャトルラン	53.5	48.8	50	51.6	48.1	44.5	41.4	37.8	43.5	39.9	37.2	33.9
50m走	9.2	9.5	9.5	9.4	9.5	9.4	9.5	9.8	9.5	9.6	9.7	9.8
立ち幅跳び	156	149	149	152	148	148	146	141	143	145	141	140
ボール投げ	25.9	25.5	26.2	23.8	23.9	23.2	15	14.5	14.7	14.3	14.1	13.1



⑦市内の競技スポーツの状況

□体育協会顕彰（受賞者一覧）

角田市では東北大会や全国大会等に出場する選手やチームへの支援、更にはスポーツ顕彰制度を実施し、競技力の向上策に努めています。

競技力の向上には、より高い指導力や高度な専門知識を有した指導者の育成は欠かせませんが、近年本市では優秀指導者賞の受賞者が選出されていない状況です。また、競技力の向上には、競技者の視野を広げるハイレベルな試合を誘致開催することが必要であり、合わせて競技人口の拡大を図ることもできます。

今後も、中学校総体、高校総体、各種東北大会や国民体育大会などに際し、競技スポーツに取り組む人たちの努力に対する顕彰を継続するとともに、スポーツ活動の更なる啓発を図ることが大切です。

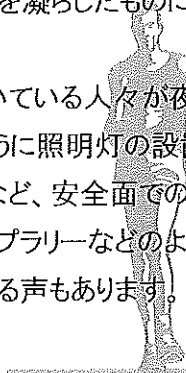
○角田市体育協会表彰一覧

	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体
奨励賞	18	31(2)	20	3(1)	16	3(1)	11	10(1)	20	12(1)
優秀選手	8	0	5	0	12	0	6	0	7	0
功績賞	28	15(2)	18	12(2)	17	33(5)	16	12(2)	17	14(2)
特別功績賞	2	0		0	4	0	4	0	3	0
優秀指導者賞	2	0		0	0	0	0	0	0	0
功労章	1	0	1	0	2	0	1	0	1	0
計	59	46(4)	44	15(3)	51	36(6)	38	22(3)	48	26(3)
総計	105(4)		59(3)		87(6)		60(6)		74(3)	

※(参考)ウォーキングコースの状況

健康推進課では、運動習慣者を少しでも増やすため市内各所にウォーキングコースを設定し、市民ボランティアによる手づくりのウォーキングマップを作成しています。これらのコースは地域の自然に親しみながら、名勝地をめぐるなど趣向を凝らしたものになっています。

日中働いている人々が夜間でも歩けるように照明灯の設置や歩道の整備など、安全面での対策、及びスタンプラリーなどのような楽しさを求める声もあります。



市内ウォーキングコース名		距離	所要時間
きばらずに気楽に歩こう 台山公園コース		1周 1km	15分
風薫るあぶくまつつみでエアロピクス	①角田橋コース	10km	2時間30分
阿武隈リバーサイドコース	②菜の花コース	6km	1時間30分
牟宇姫ゆかりの地 まち中コース		1周 4km	1時間30分
胸をはってさわやかに歩こう北郷コース		1周 8km	1時間40分
史跡・田園 北郷コース	①上級コース	1周 4.5km	1時間20分
	②中級コース	1周 3km	50分
史跡と歴史をウォッチング藤尾コース		1周 9.5km	2時間
金津まちなか・内町湖 藤尾コース		1周 3.9km	1時間30分
みてけらいん垣間見る遺跡と社寺の枝野コース		1周 4km	1時間
数百年の時の流れと清涼感溢れる横倉コース		1周 3.5km	50分
愛宕神社・横倉コース		1周 3.8km	1時間
霊場お斗蔵山の修験者用？夏場体力増強！小田コース		1周 4.7km	1時間10分
せんだんの木・高蔵寺 西根コース		1周 3.7km	1時間30分
大地と大河・空と風・・・！ 桜のウォーキングロード	①初級コース	1周 4.5km	1時間
	②上級コース	1周 6.5km	1時間20分
全体が一望できる東根の ウォーターフロントコース	①初級コース	1周 3km	30分
	②中級コース	1周 4.5km	1時間



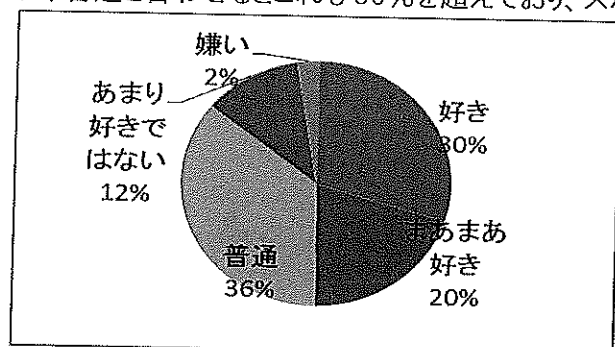
2. 角田市民のスポーツに対する意識

アンケート調査結果から

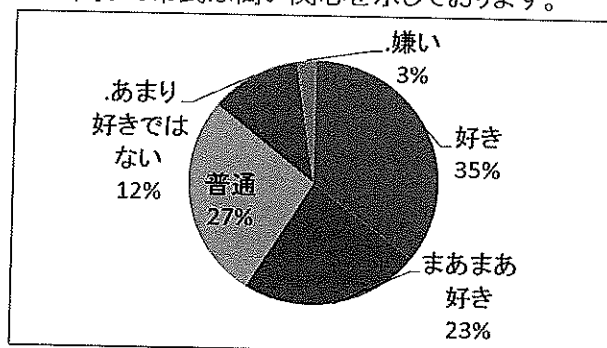
スポーツ推進計画を策定するにあたり、市民を対象としたアンケート調査を実施しました。詳細については巻末資料に掲載してありますが、特筆すべき項目と課題について、分析した結果を掲載しております。

■□■ 運動やスポーツについての市民の関心 ■□■

市民の運動志向についての結果をみると、スポーツ・運動をすることが好き 30%とまあまあ好き 20%を合わせて50%、普通と合わせると 85%を超えています。また、観戦することについても、好き 35%、まあまあ好き 23%、普通と合わせるとこれも 85%を超えており、スポーツに関して市民は高い関心を示しております。

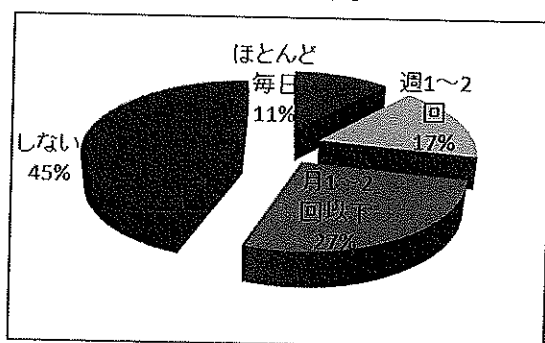


スポーツ・運動をすることが好き

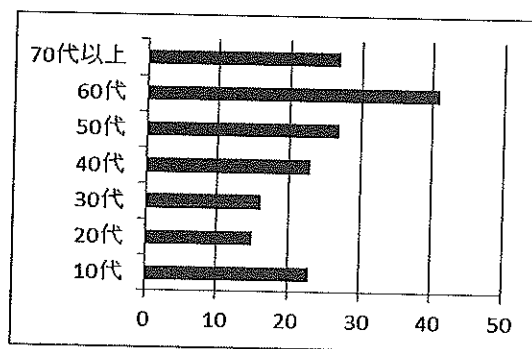


スポーツ・運動を観ることが好き

この一年、何らかのスポーツをした人は 55%で半数をやや上回る結果であります。一年間のスポーツ実施状況を見ると、「殆ど毎日」と「週1～2回」を合わせても全体では 28%であり、全国平均 45.3%(平成 21 年度)を大きく下回っています。「殆ど毎日」と「週1～2回」運動をしている世代別分布を見ると60歳代が最も多く、続いて70歳代、50歳代であります。

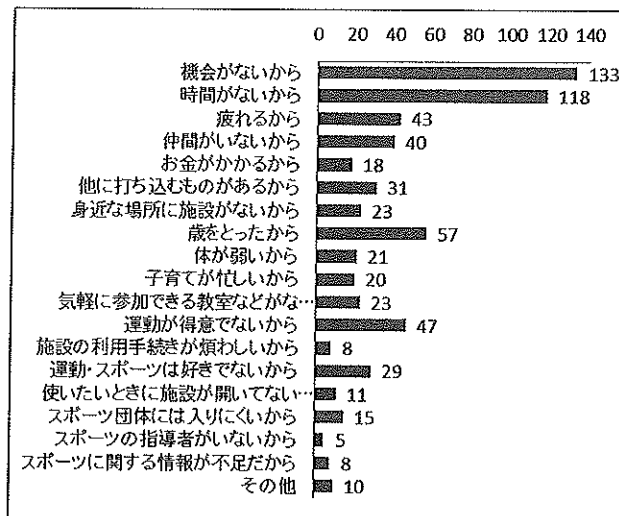


スポーツ・運動実施状況

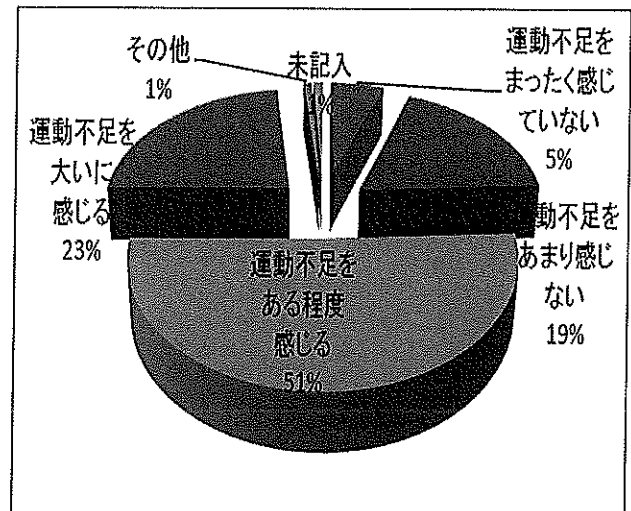


週1～2回以上スポーツ・運動している

また、自分の体力については半数以上の人は自信があると回答していますが、75%の人は運動不足を感じていると回答しております。スポーツ・運動をしなかった理由として、「機会がないから」20%「時間がないから」18%で上位を占めています。一方、休日に3時間以上余暇時間がある人は 60%に上り、5時間以上人でも 27%を占めていることから、働く世代は時間や機会がなく、その他の世代では機会を求めていることが窺えます。

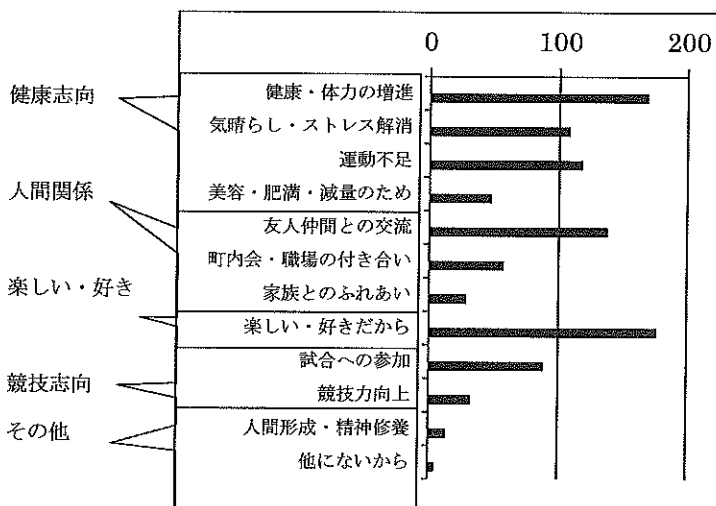


スポーツ・運動しない理由

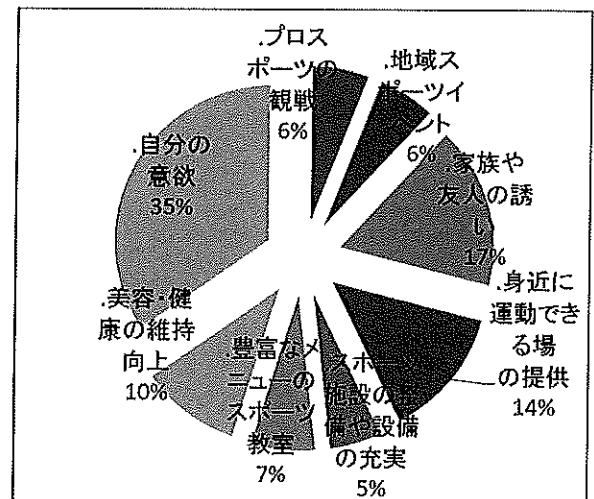


運動不足について

スポーツ・運動をすることについて分野別にまとめると、純粋に「好き・楽しいから」が18%、「健康志向」が45%、「競技志向」が12%、「人間関係」が22%であり、半数近くの人が健康を目的に取り組んでおります。スポーツをするきっかけに必要なことは「自分の意欲」がもっとも大切であり、続いて「身近に運動のできる場の提供」や「家族や友人の誘い」が高い回答です。スポーツを行っている人の82%は「誰かと一緒にする」と回答しており、コミュニケーションや人間関係も大切なひとつの要素を担っていることが分かります。

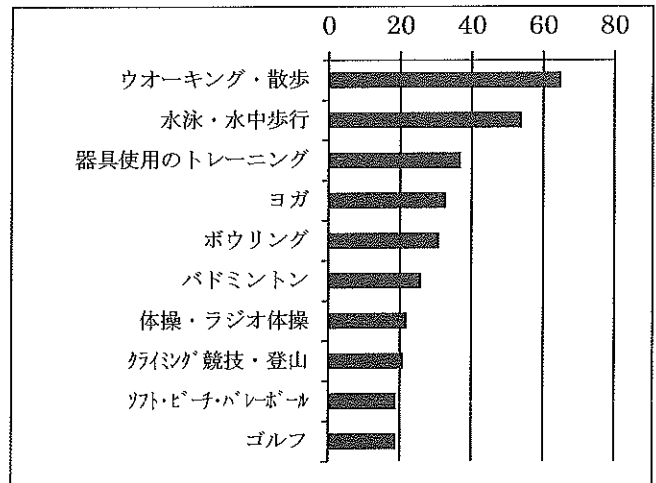
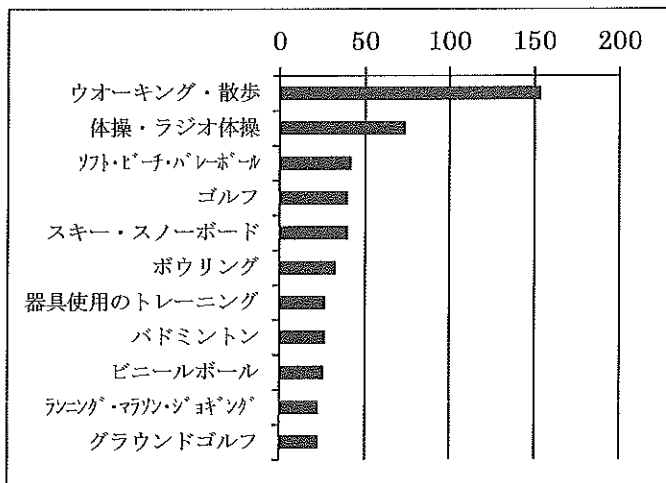


スポーツ・運動する理由



スポーツ・運動するきっかけ

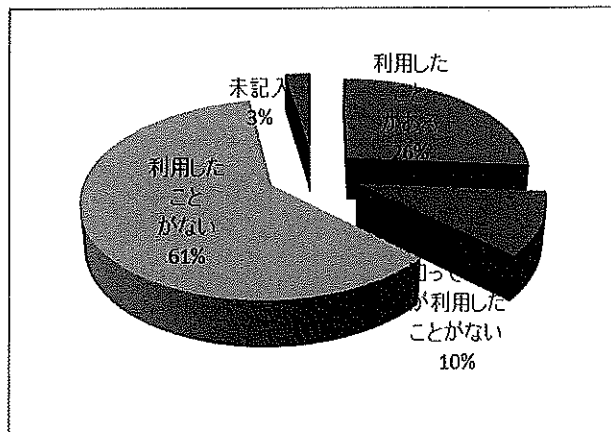
現在行っているスポーツの上位は①ウォーキング・散歩、②体操・ラジオ体操、③バレーボール(含:家庭ソフト)、④ゴルフで、器具使用のトレーニングが上位10位以内に入っており、家庭用の健康器具の普及が垣間見えます。今後やりたいスポーツについても①ウォーキング・散歩、②水泳・水中歩行、③器具使用のトレーニング、④ヨガと続き、健康志向が強く出ていることを示しております。注目すべきは、30%の人々はお金をかけないスポーツ・運動を行っている状況にあることです。



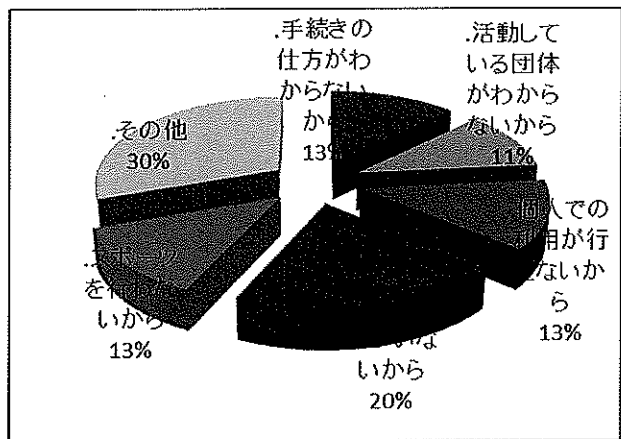
学校開放事業についての市民の関心

学校体育施設の体育館・グラウンドなどを、身近なスポーツ活動の場として開放しています。利用頻度は高いですが、利用している人は26%で、利用したことがない人が61%に上ることから、限られた人たちの利用が窺えます。利用したことがある人は、スポーツ少年団や地域の行事、そして地域仲間の同好会やクラブ活動です。利用したことがない人は、①仲間がいない ②手続きが不明だから ③個人利用できないから ④スポーツをしないから、という理由が主です。

身近な場所として、より多くの方に効率的・効果的に利用していただけるように、運用方法や情報の提供などの改善を図ることが必要です。



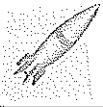
学校体育施設の利用



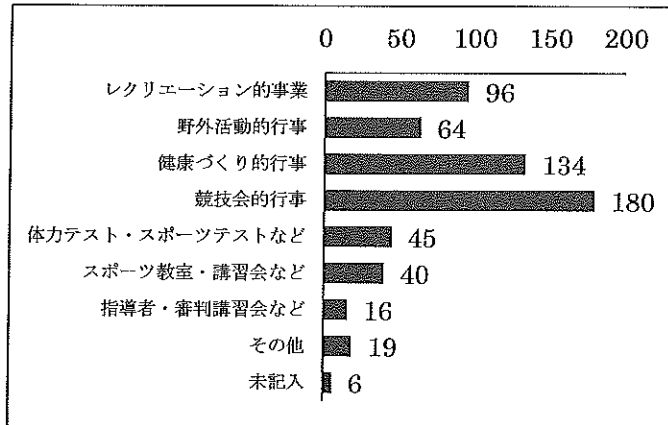
学校体育施設を利用しない理由

市や町内会が主催するスポーツ・レクリエーションについての市民の関心

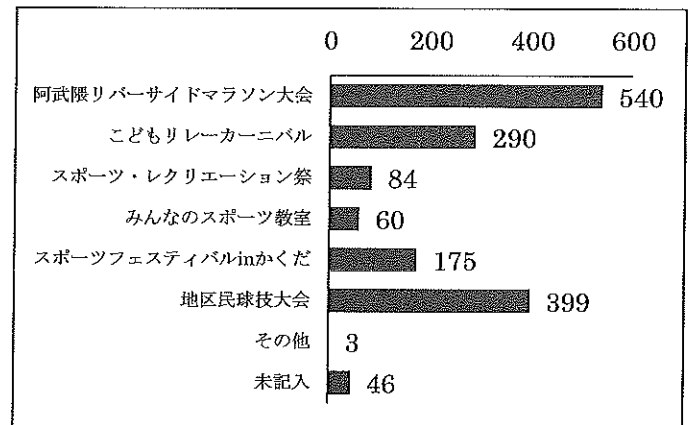
市や町内会主催のスポーツ・レクリエーションには、62%の人が参加したことがあると回答しています。参加したい行事は①競技会的行事 30%、②健康づくり的行事 22%、③レクリエーション的行事 16%が上位を占めています。参加しなかった主な理由は、①日程や時間が合わなかったから 29%、②知らなかったから 23%、③スポーツを行わないから 20%です。



市が開催している行事の認知度については、88%の人が阿武隈リバーサイドマラソン大会を知っており、65%の人が地区民球技大会、47%の人がこどもリレーカーニバルを知っていると回答しています。更に認知度を高め、「おらがまちのスポーツ」として定着を図るよう努めることが大切です。



参加したい行事



市開催の行事の認知度

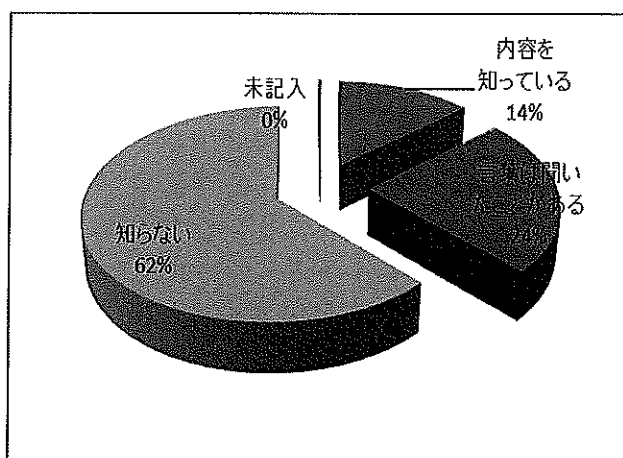
■□■ 総合型地域スポーツクラブについての市民の関心 ■□■

総合型地域スポーツクラブの認知度については、「内容を知っている」と回答した方は、僅か 14%であり、62%の人が「知らない」と回答している状況です。

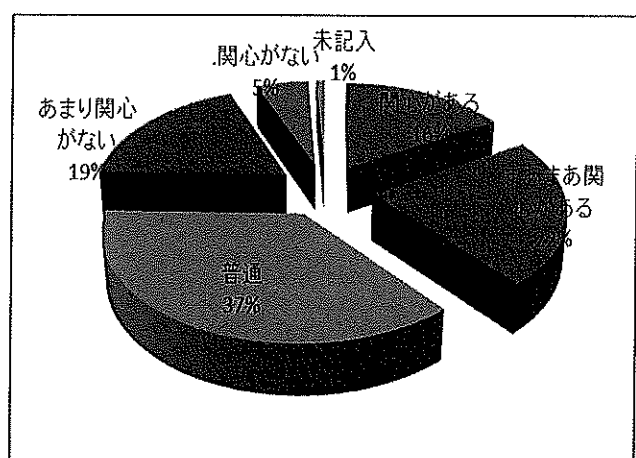
総合型スポーツクラブとは、文部科学省が1995年より展開しているスポーツ振興施策の1つであり、複数の種目で、子どもから高齢者まで様々なレベルに合わせた活動を行い、地域住民が主体的に運営するものです。県教育委員会では各市町村に1つは設置する方針としております。

関心の度合いを見ると16%の人が「関心がある」と回答し、「まあまあ関心がある」と「普通」を合わせると、75%の人が関心を示していることがわかります。

日常的にスポーツに親しみたい層が増えている状況の中で、特にスポーツをする仲間を求めている人々には適した組織であると思われます。今後、運動意欲を喚起すると共に、情報不足の現状を解消するため、様々な情報の提供を試みて、普及に努めることが必要な状況です。



スポコムかくだの認知度



スポコムかくだの関心度

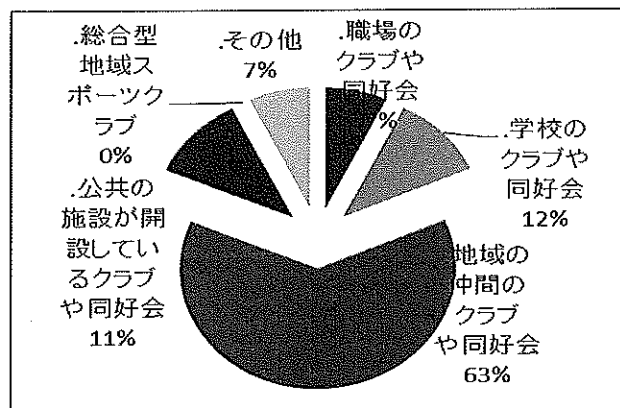
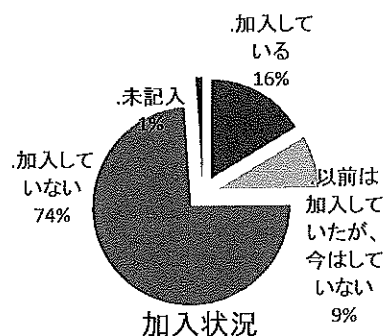


■□■ スポーツクラブや同好会などについての市民の関心 ■□■

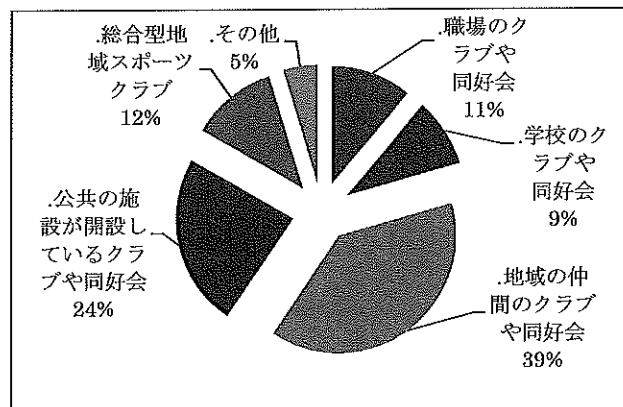
スポーツクラブや同好会の加入状況や傾向を見てみると「加入していない」が74%を占めています。そして、その人たちの78%は今後も「加入したくない」と回答しています。

加入している人やこれから加入したい人たちの傾向を見てみると、どちらも「地域の仲間のクラブや同好会」の割合が断トツで高い割合を示しており、すでに加入している人で63%、これから加入したい人で39%を占めています。

地域の中や既存の組織の中で、自分の居場所を求めていることも考えられ、取り組みやすいところから門戸を開いていけば、スポーツ普及の糸口が見えてきそうな状況と思われます。



加入している同好会やサークルの割合

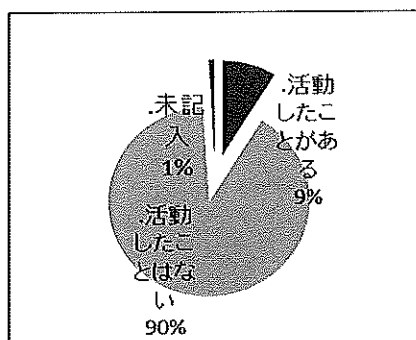


加入したい同好会やサークルの割合

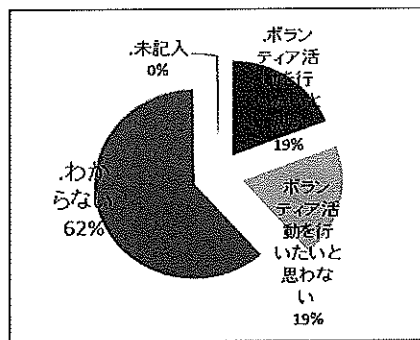
■□■ スポーツボランティアについての市民の関心 ■□■

ボランティアの活動をしたことのない人の割合は90%となっており、活動したことのある人は僅か9%であります。しかし、活動したことのない人のうち、「今後機会があればしたい」という人が5人に1人にあたる20%近いことも事実であり、支えるスポーツの柱となるボランティア活動について、ボランティアの楽しみ方も交えた働きかけが必要と思われます。

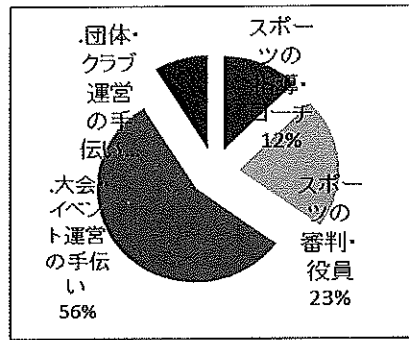
活動経験の多い人は活動意欲も高い傾向にあります。主な活動内容は①大会・イベントの運営協力、②審判活動、③スポーツの指導となっております。



活動の経験



今後活動したいか

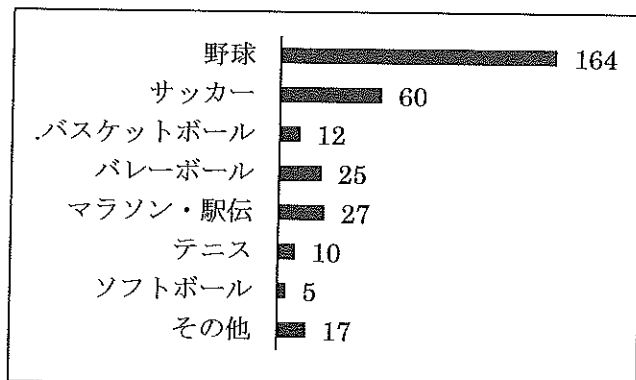


主な活動内容

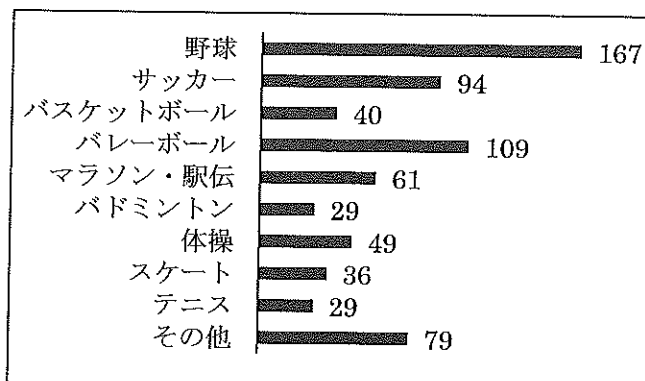


■□■ スポーツ観戦についての市民の関心 ■□■

市民の中でレベルの高いスポーツを観戦したことがあると回答した人は、35%であり3人に1人は何らかのスポーツを観戦している状況です。観戦した種目の上位は①野球 50%、②サッカー18%③マラソン・駅伝 8%、④バレーボール 8%であり、今後、観戦したい種目は①野球 23%、②バレーボール 15%、③サッカー13%、④マラソン・駅伝 8%となっています。県内にはプロや実業団のチームとして、野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール等があり、これらが大きな影響を及ぼしていると思われます。これからのスポーツ振興には観戦の機会の提供が大事な要素になり、今後、本市の体育施設での観戦機会が更に増えることが求められています。



観戦したことがある上位の種目

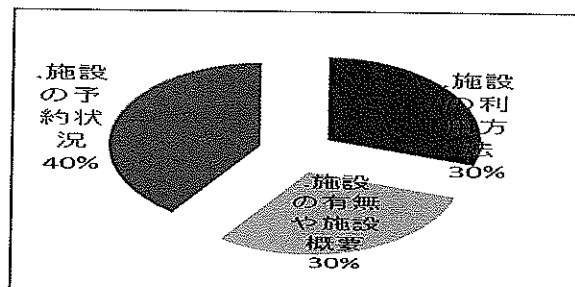


観戦したい上位の種目

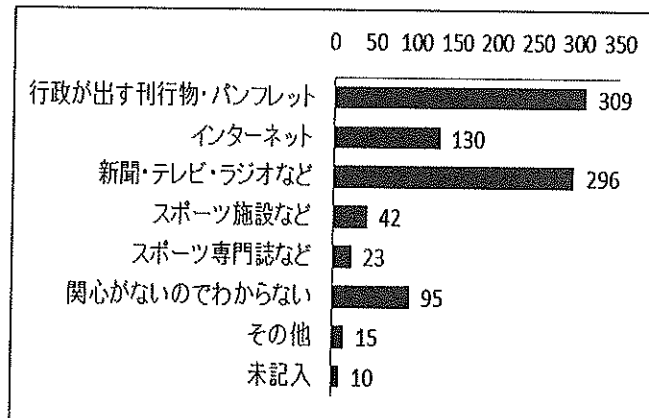
■□■ スポーツに関する情報についての市民の関心 ■□■

利用したいスポーツの情報は、①施設予約状況、②施設の有無や施設の概要、③施設の利用方法であり、利用する情報媒体は①行政が出す刊行物・パンフレット、②新聞・テレビ・ラジオなど、③インターネットとなっています。

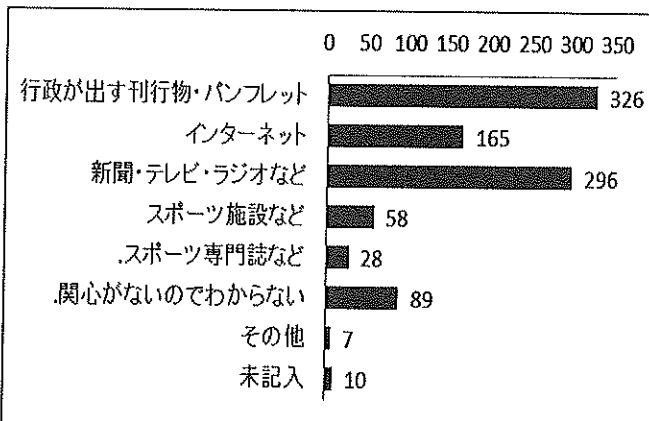
特に、インターネットの普及率は高く、今後の情報の提供はインターネットを考慮に入れたものになるように改善が求められています。



利用したいスポーツ情報



スポーツ情報をどこで得ているか

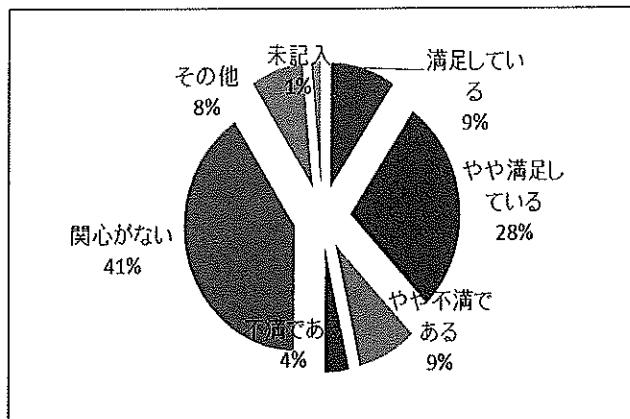


スポーツ情報をどのような方法で得たいか

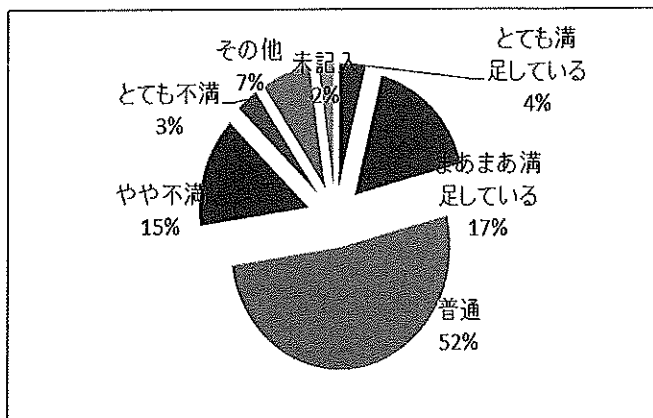


今後のスポーツ振興施策についての市民の関心

これまでの市のスポーツ振興事業について、「満足」と「やや満足」は合わせて 38%、「不満」「やや不満」は合わせて 13%であり、施策が浸透しつつあると捉えることができますが、「関心がない」と回答した人の割合が 41%になります。本市のスポーツ施設の数や設備についての満足度は「普通」も加えると 73%に上ることから、施策にはあまり関心を示してはいませんが、施設には多くの市民がほぼ満足している状態にあると推測できます。



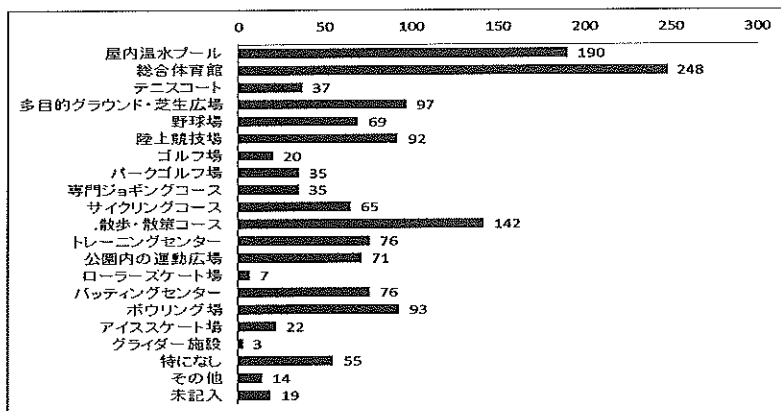
市のスポーツ振興事業の捉え方



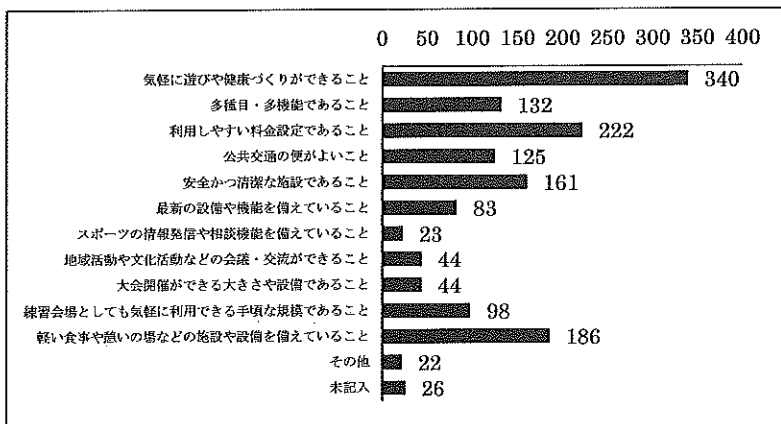
市のスポーツ施設の満足度

身近に必要なと思う施設は、①総合体育館、②屋内温水プール、③散歩・散策コースと続きますが、従来の競技志向から、昨今の傾向として「志向の多様化」が見受けられます。例えば、娯楽志向の方はボウリング場、バッティングセンター、アイススケート場などを挙げており、健康志向の方は散歩・散策コースのほかにも、トレーニングセンター、サイクリングコースなどを挙げています。

市民が施設に求めることは「気軽に遊びや健康づくりができること」「利用しやすい料金設定であること」「軽い食事や憩いの場などの施設や設備を備えていること」であり、多くの人の要望を改めて精査し、使いやすく安全な施設を目標に、これからも条件整備に努める必要があります。



必要と思うスポーツ施設



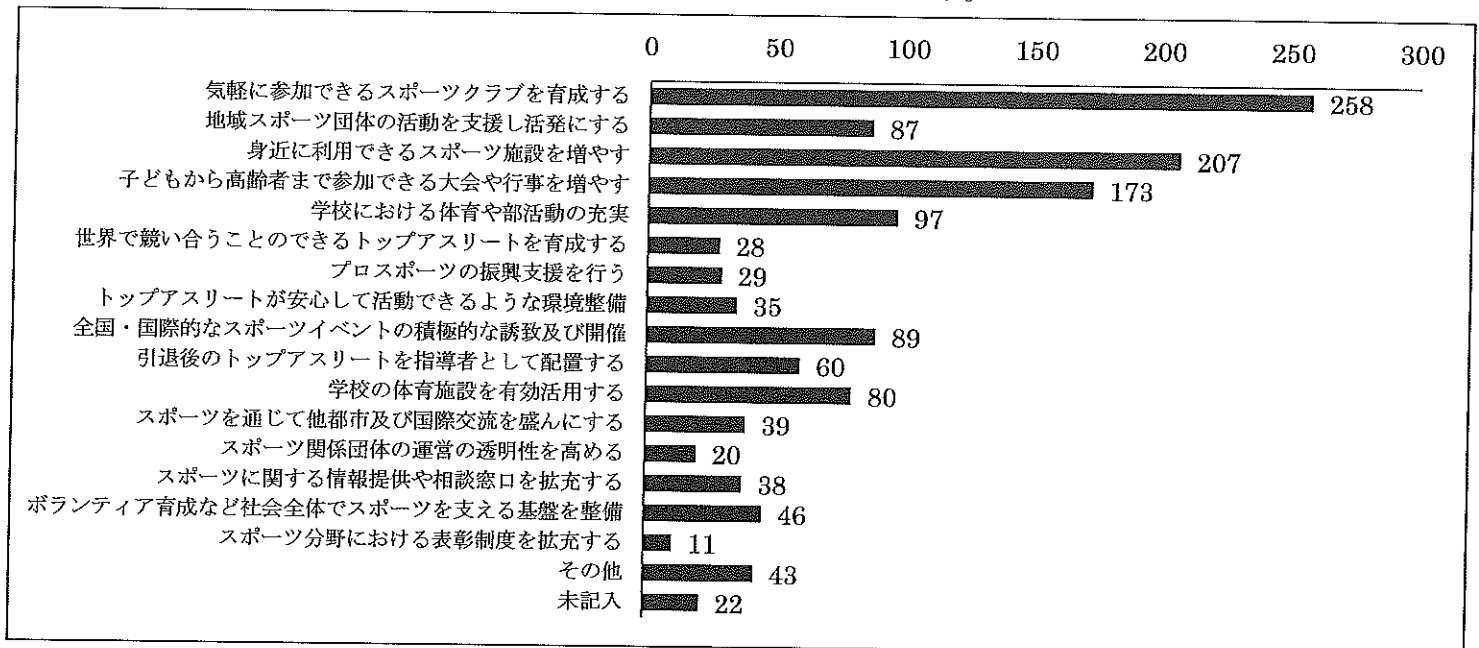
スポーツ施設に求めること



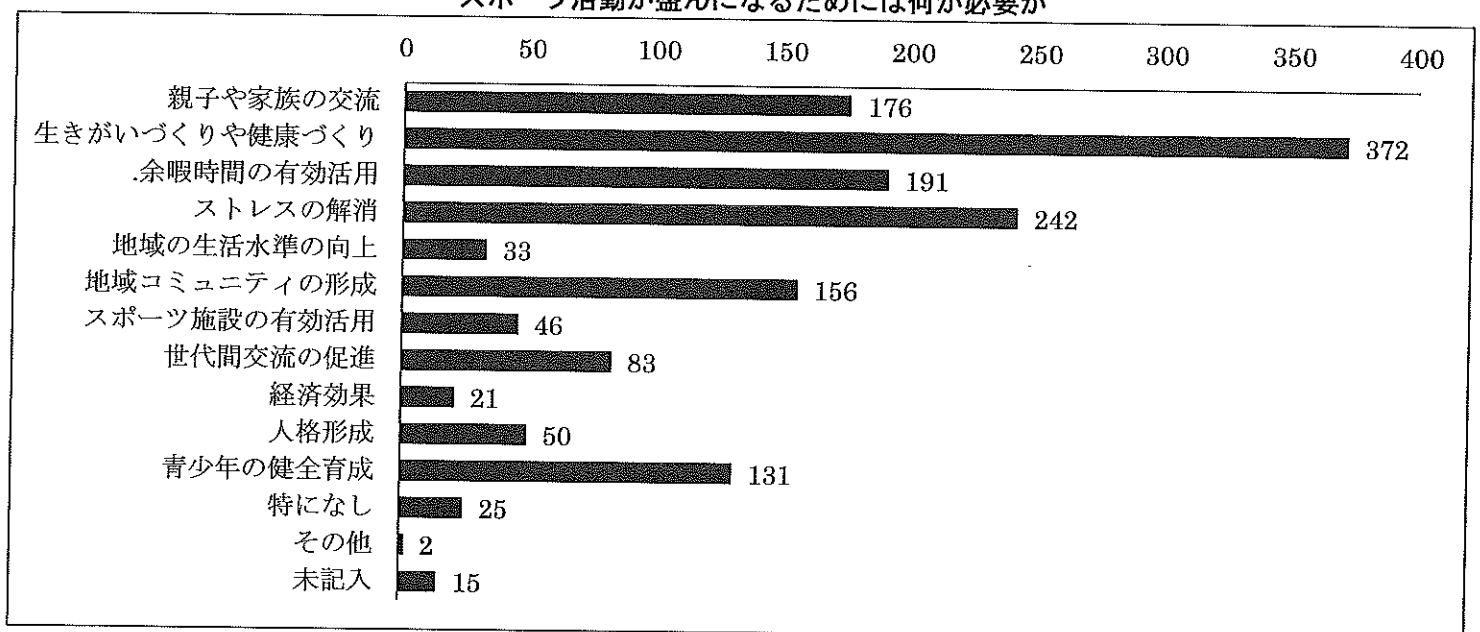
スポーツ活動を盛んにするためには、①気軽に参加できるスポーツクラブを育成する、②身近に利用できるスポーツ施設を増やす、③子どもから高齢者まで誰もが参加できる大会や行事を開催する、が上位に挙げられており、行政の上手な舵取りが求められているようです。

スポーツは回答にも現れているように、「生きがいづくりや健康づくり」「ストレスの解消」「余暇時間の活用」「親子や家族の交流」「地域コミュニティの形成」そして「青少年の健全育成」など個々の目的・方法・手段によりいろいろな役割を果たすことができるものであります。

スポーツを生活の一部に位置づけ、生涯にわたり実践していく生活習慣を身につけることが大切であり、スポーツの本質である「楽しさ・面白さ」を追求しながら、また、健康志向への高まりを生かしながら、健康で心豊かなまちづくりを目指すことが、これからのスポーツ振興に求められています。



スポーツ活動が盛んになるためには何が必要か



スポーツの役割は何か



3. 角田市のスポーツ推進に向けた課題の整理

計画では、「生涯スポーツの基盤と構造図」で全体像を捉え、市民の生活の実態やスポーツの実施状況、及びスポーツに関するニーズなどの現状を「角田市のスポーツの基盤と概要」と「市民のスポーツに関する意識」にまとめました。それらを基に、将来に向けての政策課題を整理しております。

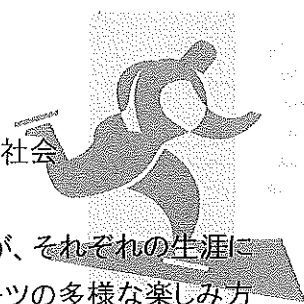
(1) 角田市第5次長期総合計画との「整合性」

地域のスポーツ振興は、まちの施策と整合性を持って推進する必要があります。角田市は様々な地域資源を有しており、交流人口や定住人口の拡大に大きな可能性を秘めております。第5次長期総合計画においては「人が集い賑わいのあるまち」を提唱し、情勢の変化に対応しながら交流によるまちづくりを推進し、地域の活性化・再生化につなげる施策を展開しています。

また、「みんなで支えあう健康で元気なまち」を掲げ、市民が生涯を通じて健康であるための環境づくりと保険・医療・福祉の連携による健康づくりが推進されています。角田市が目標とする都市像は「人と地域が輝く 田園交流都市 かくだ」であり、「地域スポーツの振興と交流」を柱として取り組んでおります。本計画はこのことを踏まえ、施策を効率よく推進するため、関係部署の横断的な連携や専属的組織の設置、あるいは、施設管理団体の専門性を図ることを目指して策定します。

(2) 国のスポーツ基本計画における参酌すべき「目指す社会の姿」

- ①青少年が健全に育ち、他者との協働や公正さと規律を重んじる社会
- ②健康で活力に満ちた長寿社会
- ③地域の人々の主体的な協働により、深い絆で結ばれた一体感や活力のある地域社会
- ④国民が自国に誇りを持ち、経済的に発展し、活力ある社会
- ⑤「平和と友好に貢献し、国際的に信頼され、尊敬される国」を基本に「一人ひとりが、それぞれの生涯においてスポーツを楽しみ、幸福を感じ取れるスポーツライフと、自分にあったスポーツの多様な楽しみ方ができる社会の実現」を踏まえ、法にのっとり、角田市の実態に合わせた計画を策定します。



(3) 角田市の実態に即した計画の策定（政策課題の整理）

課題① 世代に合ったスポーツ活動の環境づくり

「一人ひとりが年齢・体力・技術・生活に合ったスポーツライフの構築」

「未来を担う子どもや青少年の世代」

○児童生徒の体力の向上とスポーツの機会の充実「スポーツの芽を育てる」

平成24年(2012年)度の新体力テストの結果を見ると、角田市の小学生・中学生とも全国平均を下回っております。全国平均値を上回っているのは運動能力面ではほとんどなく、体格において体重や座高が上回っている状況です。少子化による遊び仲間の減少、生活スタイルや遊びの内容の変化など、以前の子どもと比較すると自然な遊びの機会が減少したことも要因のひとつと考えられます。

学習指導要領に示される「生涯にわたり運動に親しむ資質や能力の基礎を育て、豊かなスポーツライフを実現する」という趣旨を踏まえて、学校ごとに実態に即した「体力向上運動プラン」などを作成し、体を動かす楽しみや心地よさを体験させるとともに、体力・運動能力の向上に積極的・継続的に取り組むことが必



要であり、加えて、保護者等の理解と協力を求めることが必要です。

また、スポーツをする機会の充実を図り、児童生徒が生涯にわたってスポーツに親しむためには、気軽に参加できるスポーツ教室やイベント・大会を開催することや、地域のスポーツ少年団や総合的地域スポーツクラブの活動を推進し、連携を図ることも重要な施策です。

更には生徒のスポーツの多様なニーズに対応するため、幅広く指導者の育成を図り減少傾向にある部活動の活性化を図る対策も必須です。

幼児の教育現場においても、全身や五感を使った遊びに取り組むことや、指導者やスポーツに携わる人が巡回指導等を企画し、スポーツが有する特性や魅力の一部を幼少期に少しでも体験させることが求められています。

	小学校5年(男子)			小学校5年(女子)			中学校2年(男子)			中学校2年(女子)		
項目	全国	県	角田	全国	県	角田	全国	県	角田	全国	県	角田
身長	138.9	139.5	137.8	140.1	140.5	139.5	160	160	162	155	155	156
体重	34	35.9	34.7	34	35.4	34.6	49	49.8	50.6	47.4	48	49.2
座高	74.9	75.3	75	75.8	76.1	79.4	84.9	85.4	84.2	83.9	84.2	79.4
握力	16.7	16.5	18.2	16.2	16.3	18.2	29.7	30	28.1	24	34.3	23.1
上体起こし	19.4	19.1	19.3	17.9	17.9	18.6	27.6	27.9	23.8	22.8	23.3	20.3
長座体前屈	32.6	32.2	30.5	36.7	36.6	33.5	43.3	42.8	42.1	45	44.9	46.4
反復横とび	41.6	41.4	38.3	39.2	39.4	36.7	51.6	51.7	40.3	45.5	45.4	37
シャトルラン	51.6	48.1	44.5	39.9	37.2	33.9	86.2	85.5	74.1	57.9	55.3	51.4
50m走	9.4	9.5	9.4	9.6	9.7	9.8	8.01	8.02	8.52	8.87	8.92	9.36
立ち幅跳び	152.3	147.8	148.4	144.8	141.4	140.4	195	193	194	167	164	164
ボール投げ	23.8	23.9	23.2	14.3	14.1	13.1	21.2	20.5	20.3	13.1	12.5	13

「社会の中核となり、仕事や子育てを行う世代」

○働く世代のスポーツ活動への参加促進「スポーツを楽しむ機会の提供」

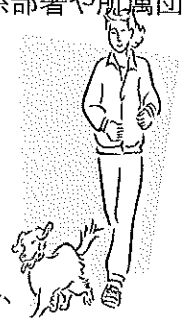
角田市の運動・スポーツの実施状況を見ると、週1回以上実施している人の割合は、全国平均や県の平均より遥かに下回っています。また、この1年間運動・スポーツをし

	国	宮城県	角田市
週1回以上の運動の実施率	45.3%	38.4%	28.0%
1年間運動をしていない割合		30.7%	45.0%

ていない人の割合も他と比較して多い状況です。働く世代は特にスポーツをする機会や時間が少ない現状にあります。職場や地域・家庭が絡んでおりなかなか難しい問題を含んでいますが、各関係部署や所属団体が連携を図り対応しなければならない大きな課題です。

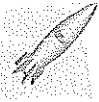
運動・スポーツをするためのきっかけとして、「家族や友人の誘い」「身近に運動のできる場所の提供」「プロスポーツの観戦」といった環境の整備が求められています。また、スポーツが得意でなくても楽しめるレクリエーションスポーツや、子どもと一緒に参加できるスポーツイベントなど、それぞれの目的や希望にあった活動の提供も求められています。

働く世代は、特に今後の健康づくりの基盤となる時期でもあり、自分の健康状態を把握し、生活習慣や運動習慣を見直し、豊かな人生が送れるような環境づくりを進める必要があります。



☞ ≡ スポーツとは ≡

スポーツは、日常的に気晴らしとして楽しむ人や健康維持増進として取り組む人から、競技者として打ち込む人まで、運動やスポーツに参加するすべての人がその意義と価値を持ち、主体的かつ継続的に楽しさを味わうことができる



「長寿社会を健康に生きる高齢者世代」

○高齢化社会と健康づくり「生きがいと老化防止とスポーツとの出会い」

角田市の人口は平成24年3月現在で、31,690人、男子15,616人、女子16,074人と減少傾向にあります。平成17年と平成24年の年齢3区分別人口を見ると、年少人口と生産年齢人口の割合が減少し、老年人口の割合が増加しています。現在4人に1人は高齢者であり、このままでは平成30年代には3人に1人が高齢者となることが予想され、少子高齢化社会がますます顕著になると思われます。

年齢3区分別人口比の推移

	年少人口 (14歳以下)	生産年齢人口 (15歳～64歳)	老年人口 (65歳以上)
平成17年	12.8%	62.5%	24.7%
平成24年	12.2%	61.0%	26.8%

高齢化が進む本市において、中高年の健康づくりは重要な課題のひとつです。生活習慣病の予防やストレスの発散、生きがいづくりなど充実した人生を送る上で基礎体力の向上は大切な要素のひとつです。市民が健康で明るく豊かに暮らせる社会を目指し、いつでも、どこでも、誰でも行える簡単な運動や体操を広めるとともに、日常的に運動ができる機会を提供することが必要です。

現在全国各地でご当地体操が花盛りで、ラジオ体操を改良したものが地域に馴染んでいます。視点を変えれば、ラジオ体操でも異なる鍛え方ができ、実施する場所や時間を工夫すれば、まちの活性化と一体感を醸成できるものであり取り組む価値があると思います。

また、市内ウォーキングコースが設定されていますが、いつでも気軽に安全で快適なウォーキングが楽しめるように、夜間照明を含めた環境の整備と情報の提供が求められています。

○障害者スポーツの普及

障害者の運動・スポーツに関しては、障害のある方が気軽にスポーツ活動ができるように施設の整備や、障害の程度や種類に応じて取り組めるように環境の整備が必要であり、また、専門的知識を持った指導者の配置が求められています。

障害者への正しい理解と認識を深め、スポーツを通し社会参加の取り組みを支援するようにすることが必要です。



課題② スポーツによる交流の促進

[活力のあるまちづくりと地域スポーツの振興]

○地域交流と経済効果

現在、地域間交流や世代間交流が叫ばれていますが、地域住民が共に行うスポーツ活動や高齢者及び障害者との交流などは地域づくりを育むひとつの有効な手段でもあります。また、スポーツ振興事業の一環として、身近なプロスポーツを観戦できることや憧れの選手を応援したり、交流の場を持てることは地域住民の夢や希望を育むことにもなります。

また、地域活性化には経済効果を高める必要があります。スポーツ活動を行うと共に、多様化するスポーツ愛好者を数多く呼び込む方策が求められます。観光産業とスポーツ産業との結びつきと育成を図る施策、スポーツイベントや体育施設を利用した各種イベントを誘致する施策などは、行政機関に専属組織

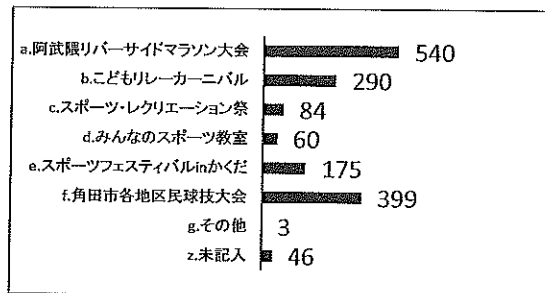


の設置、もしくは、管理団体に地力をつけさせ専門化させるなど、近未来を想定した施策が必要であります。

加えて、町のイメージが商品を構成する要素のひとつでもあり、自然や歴史、特産品などの地域文化にも触れながら、地域住民とふれあい、旅行価値を高める観光行動(スポーツツーリズム)の展開が必要です。

リバーサイドマラソン大会、菜の花ウオーキングなどの市民参加型から、ベガルタレディースの公式試合などの観戦型、年間通じて行われているスポーツ合宿や研修会の誘致などの競技・研修誘致型まで、既存のスポーツ施設を有効活用した地域の活性化につながる施策に大きな期待が寄せられております。

角田市主催行事の認知度



○阿武隈リバーサイドマラソン大会参加数の推移

	20年度 第21回	21年度 第22回	22年度 第23回	23年度 第24回	24年度 第25回
角田市	376	360	615	651	623
県内	938	1,177	1,299	1,259	1,380
県外	154	175	288	205	286
総計	1,468	1,712	2,202	2,115	2,289

	1位	2位	3位	4位	5位
観戦したスポーツ	野球 50%	サッカー 18%	マラソン・駅伝 8%	バレーボール 8%	バスケットボール 4%
観戦したいスポーツ	野球 23%	バレーボール 15%	サッカー 13%	マラソン・駅伝 8%	体操 7%

ベガルタレディース入場者(ホームゲーム)			
期日	開催地	入場者数	備考
9月29日	角田市	3,109	晴天
10月20日	角田市	1,274	豪雨
4月27日	宮城スタジアム	4,840	最高入場数
9月8日	県サッカー場	781	最低入場数

○スポーツ行政の改革

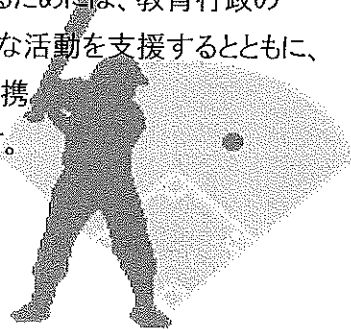
本市のスポーツ行政は施設の整備に力を入れながら、体育協会や関係団体及び指定管理団体とともに役割分担をして推進してきました。各事業においては、教育行政の枠組みの中で、各関係団体の協力を得ながら展開してきました。しかし、利用者の利便性や施設の管理、あるいは利用者のニーズに即した事業や経済の活性化を図る事業を展開するためには、横断的に関連部署との連携を深める体制が必要であり、首長直轄の部署の設置、もしくは身動きのとりやすい外部団体が主となることが望ましいと考えられます。

これからのスポーツ行政において、各事業が市民と直結し、合理的に推進するためには、教育行政の枠を超えた取り組みを検討する段階にきています。市民や競技団体の主体的な活動を支援するとともに、指定管理団体や関係団体に事業運営を委託するなどして、広範囲な分野と連携を図りながら、まちに活力が生み出されるよう改善していくことが喫緊の課題です。

また、必要に応じて市民を交えた協議会等の設置を検討し、継続した改善を図っていくことも大切なことです。

○スポーツ関係団体の育成支援

スポーツ少年団の育成や各競技団体の支援はこれからも必要なことです。特に、総合型地域スポーツクラブは生涯スポーツ・競技スポーツ・学校体育を抱合した新しいスポーツ基盤として、官民一体となり整備されてきましたが、まだまだ市民には浸透していない状況です。様々な波及効果が期待できるものであり対策が望まれます。





課題③ スポーツ活動の支援と環境整備

[スポーツへの多様な関わり方への支援]

○既存の体育施設の効果的な整備と運営

多くの市民が体育施設を利用し活発に活動していますが、一方では、「体育館の申込が不便である」「望んだ時間に使えない」「大会で使用する用具が不足している」といった苦情もあり、管理団体と連携を図り多様化する市民の要望に応え、誰もが使いやすく、楽しめる施設として現有の体育施設を最大限に活用するための工夫や整備が必要です。身近な場所に軽運動が簡単にできる施設の増設や娯楽性の高いスポーツ施設の整備も求められています。また、野球場をはじめ施設の老朽化が顕著になってきています。夜間使用も含め安全性に配慮した改修が必要です。

学校開放事業については身近で親しみの持てる施設として、市内の学校が地域に解放されています。統廃合された施設の有効活用を図り、改修や計画的な整備を行い、今後もスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等の活動拠点としての運用されることは勿論、利便性を図り多くの人に利用されるよう検討していくことが必要です。

また、体育施設が整っている中央公園は、機能性があり市民の拠点となっている場所ですが、近くに商業施設がなく、大会開催時はもとより日常的に使用している人にも、軽食や買い物ができる施設の設置要望が多く出されています。施設までのアクセスの改善も視野にいれ今後の大きな課題となっています。

スポーツの実施に必要な関連情報については、ホームページや市の広報等での詳細な情報が求められています。急速に高度化した情報社会に対応するためにも、分散しているスポーツや健康に関する情報を整理し、インターネット等を活用して、競技団体や市民に積極的に提供するように改善を図ることが必要です。また、市民からの情報を受け共有する体制づくりの検討にも着手しなければなりません。

○指導者の確保と育成とボランティアの活動の推進

スポーツ振興を図る上で資質の高い指導者の必要性は万人が認めるところです。指導者の研修会や近隣の大学と連携し、指導者の質の向上に努めることが求められています。また、未登録の審判員や指導者の掘り起しを図るとともに、スポーツリーダーバンクを整備し市民の要望に応じた指導者の確保が必要です。

	軟式野球	空手道	バレー	柔道	剣道	水泳	サッカー	
スポ少	45	10	9	2	7	4	5	
スポコム	1	0	2	0	0	0	4	
	陸上競技	剣道	バスケット	バドミントン	ソフトテニス	卓球	ソフトボール	計
スポ少	3	5	9	0	0	0	0	99
スポコム	8	0	5	4	1	6	1	32

有資格者及びボランティア指導者数(H24)

加えて、スポーツボランティア活動の中でも指導や審判とともにイベントや大会を支える方のボランティア活動を普及させることがこれからの課題です。大会運営補助から普段のスポーツの指導などの支援まで、市民の関心が高まるように対応策を練る必要があります。

○スポーツの医科学や関連部署による支援

スポーツにおける体調管理や身体づくり等が、安全で効果的に行われるように、トレーニング方法をはじめ栄養指導から、応急手当や救命法まで、スポーツドクターや栄養士、保健師等の活用を図ることが必要です。また、関係部署や健康支援団体との連携を深め、様々な角度から生活の中のスポーツを支援する環境の整備に努めることが求められています。



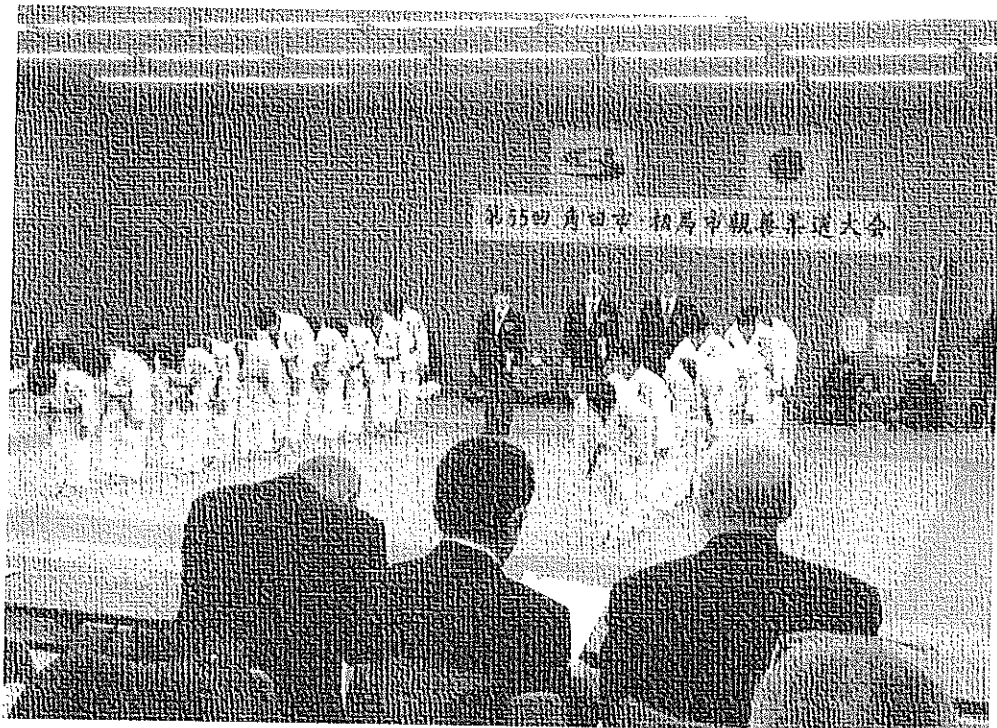
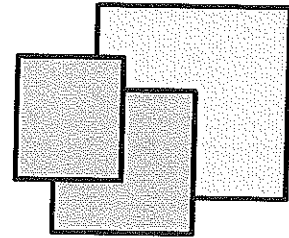


生涯スポーツの基盤と構造図



第3章 推進計画策定の基本方針と施策の方向性

- 1 基本理念
- 2 計画の目標と方向性
- 3 施策の視点
- 4 成果指標
- 5 施策の体系図



角田市・相馬市親善柔道大会より

角田市民の将来のスポーツライフを見据えた基本理念を策定し、基本理念の実現のための具体的な目標や方向性を定めるものです。



第3章 推進計画の基本方針と施策の方向性

1. 基本理念

「市民一人1スポーツ」生涯スポーツ社会の実現

～いつでも、どこでも生活の中で自然に

スポーツに親しめる「スポーツ・イン・ライフ」を目指し、

明るく健康で活力あふれたまちづくり～

国のスポーツ基本計画（H24～H28）では「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」という定義のもと、青少年が健全に育つ社会、人々が協働で結ばれた地域社会、健康で活力に満ちた長寿社会を作ることが提唱されています。

また、第2期スポーツ基本計画（H29～H33）では「スポーツ参画人口」を拡大し、他分野との連携・協力により「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むことを基本方針とし、地方自治体には、スポーツを通じた健康増進、共生社会の実現や経済・地域活性化など、活力ある社会づくりに関係部署・団体が一体となって取り組むことが期待されています。

角田市の計画においては第5次長期総合計画に基づき、また、スポーツ推進の目的を踏まえ、市民一人ひとりが生涯にわたり、体力や年齢、技術、興味、目的等に応じて、スポーツに親しむことができる環境づくりを目指し豊かなスポーツライフの実現に取り組んでいきます。

また、スポーツがもたらす多様な価値を活かし、幅広い連携・協働が培われる生き生きしたまちづくりを目指します。

2. 計画の目標と方向性

基本理念を実現するために、施策の展開の方向性として次の3つの目標を掲げ計画を推進していきます。



（1）ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

「調和の取れたライフスタイル・ライフステージづくり」

健康や体力づくり、生きがいくくりや仲間づくり、競技力の向上など、個々のライフステージに応じたスポーツ・運動活動の定着が図られるよう、自らスポーツに親しむ市民の育成に取り組めます。



(2) 地域に夢と活力をもたらすスポーツ交流の促進

「親しみあふれるネットワークづくり」

市民が一体となり参加・応援ができる地域・学校・団体が主催するスポーツ事業を推進するとともに、スポーツ・運動を通じて地域間の交流が活発化するスポーツイベントやスポーツ大会の支援や招致に努めます。

(3) 誰もが快適に親しむことができるスポーツ環境の整備

「支え育むスポーツシステムづくり」

気軽にスポーツや運動に親しみ、ライフステージに応じた多様なスポーツ・運動活動の場や機会を充実させるため、公共施設の活用を促進させるとともに、スポーツ活動を支援するシステムや環境を整えます。

3. 施策の視点

スポーツは運動能力の高い人だけでなく、様々な目的のもとで、多くの人が関わりをもつようになってきています。本計画の内容を効果的かつ効率的に推進するため、スポーツに親しむ関わり方として、次の3つを視点として施策を展開していきます。

◆「する」スポーツとの関わり方

身近なところで、体を動かすことで、達成感・爽快感・充実感等を味わい、生活に意欲や活力を生み出され、スポーツを始める機会にもなります。また、レベルや目的に応じて安全にスポーツが行えるようになります。

◆「観る」スポーツとの関わり方

スポーツへの興味・関心を高め、参加や活動意欲がふくらみ、スポーツを始める動機付けや感動を共有することが期待されます。また、それにより仲間づくりのきっかけにもなります。

◆「支える」スポーツとの関わり方

スポーツの活動やスポーツのイベントの創出に関わることで、感動を分かち合い生きがいづくりにもなります。また、学校や地域のスポーツ団体との連携強化、あるいは施設の充実がスポーツ活動を支える大きな力となります。



4. 成果指標

計画を推進する目安として、数値目標を定め、できる限り早期に目標を達成するため施策を推進していきます。

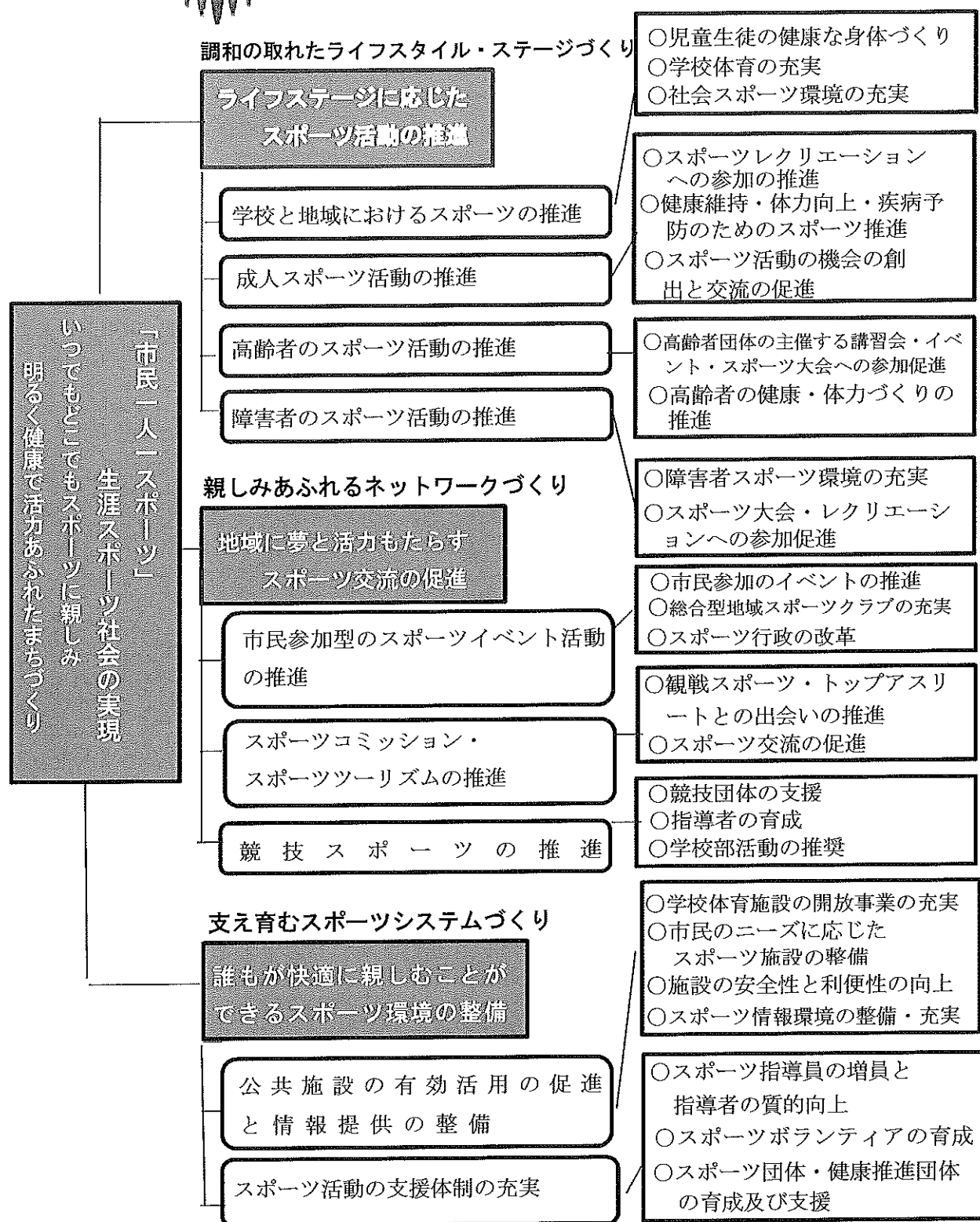
目標数値 1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進			
	現状値	H29 実績	目標値(H35)
週2回以上運動を行う人 (20歳以上)の割合 ※	男30% 女26%	-	男41% 女49%
新体力テストにおける値が 全国平均値以上の項目数	8項目中 0~3	8項目中 0~6	8項目中 4
総合型地域スポーツクラブの 会員数	全体400人 内みんなのスポーツ323	512人 411人	600人 490人
スポーツ少年団の団数と団員数	団員430人 団数 26団	410人 25団	400人 25団

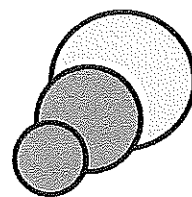
※ 「週2回以上運動を行う人の割合」の目標値は、健康分野と密接に連携して計画推進を図るため、角田市にこにこ健康プランの目標値に統合しております (H31.3 改定)

目標数値 2 地域に夢と活力をもたらすスポーツ交流の促進			
	現状値	H29 実績	目標値
人々が交流する大会開催・ 誘致数(全国・プロ)	3	3	5~6
阿武隈リバーサイドマラソン大 会の参加数	2,300人 市民 623人	2,690人 789人	3,000人 1,000人
市内大会以上の規模の大会の 開催数	130件	150件	135件

目標数値 3 誰もがスポーツに親しめる環境の整備			
	現状値	H29 実績	目標値
公共スポーツ施設の年間延利用 者数(学校施設を含まない)	210,000人	241,473	270,000
阿武隈リバーサイドマラソン大 会ボランティア数(実行委員会構 成団体以外の者)	50人	129人	150人

5. 施策の体系図





第4章 推進計画の具体的施策の展開

- 1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- 2 地域に夢と活力をもたらすスポーツ交流の促進
- 3 誰もが快適に親しむことができるスポーツ環境の整備



こどもリレーカーニバルより

基本方針と施策の方向性に従い、取り組み内容をまとめ、具体的施策を展開し、目標の実現に向けて事業を推進するものです。



第4章 推進計画の具体的施策の展開

ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

健康や体力づくり、生きがいづくりや仲間づくり、競技力の向上など個々のライフステージやライフスタイルに応じたスポーツ・運動活動の定着が図られるよう、自らスポーツに親しむ市民の育成に取り組みます。

なお、角田市においても、近年急激な少子高齢化に伴って人口減少が加速的に進んでいくことから、次の施策の方向性（１）～（４）（施策１～１０）を、今まで以上に効率よく効果的に行う必要があります。そのため、各施策を相乗効果のある方法で連携させた横断的な取組み、それぞれの施策が切れ目なく継続するような取組みを優先的に推進します。

（１）学校と地域におけるスポーツ活動の推進

施策の方向

スポーツは生涯にわたってたくましく生きるための健康や体力の基礎を培うとともに、公正さや規律を尊ぶ態度や克己心を培うなど、人間形成に重要な役割を担うものです。本市の子どもの体力や運動能力は全国平均より下回るため、運動の楽しさを体感しながら、幼児期から継続しながら基礎的な知識や技能を身につけることができるように、環境づくりと指導者の研修の推進に努めます。



施策１ 未就学児から児童生徒の健康な身体づくりと 体力・運動能力向上の推進

- ①幼児期の運動は望ましい生活習慣作りに資するものであり、家庭の理解を促進するとともに、保育に関わる人々に対して意識の共有化を図ります。
- ②早寝早起き朝ごはん運動とみやぎっ子「ルルブル」推進会議による家庭への啓発活動を推進します。
- ③子どもの遊ぶ機会やスポーツ少年団による各種スポーツ活動への取り組みを推進します。
- ④幼児・子どもの体力・運動能力実態調査を継続的に行いその結果を分析し、習慣





的に楽しく運動できる環境を整えます。



施策2 学校体育の充実

- ①子どもの健康や運動に関する研修の充実を図り、指導者の指導力向上に努めるとともに、外部指導者の発掘に努めます。
- ②学校間や校種間の連携、および総合型スポーツクラブや大学、地域との連携を図り、部活動の活性化に取り組みます。
- ③みやぎっ子! 元気アップエクササイズの活用を推進するとともに、学校独自の方策により運動量の増加と運動やスポーツの楽しさに関心を持つよう取組みます。



施策3 社会スポーツ環境の充実

- ①スポーツ教室の開催や親子で楽しく取り組める大会の支援や参加を奨励し交流を深めます。
- ②スポーツ少年団数と団員の増加に努め、また、指導者の研修を図るなど活動の活性化を推進します。
- ③児童の体力向上や記録への挑戦の機会を有する大会や記録会を推奨し、意欲の向上を図ります。また、中体連・高体連の各種事業を支援し、運動部活動の活性化を図ります。

(2) 成人のスポーツ活動の推進

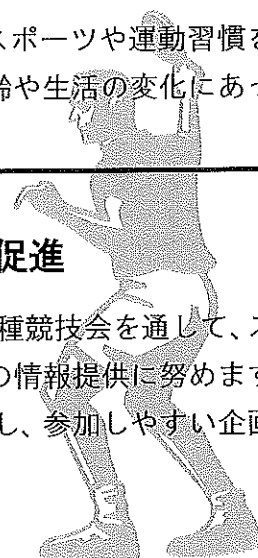
施策の方向

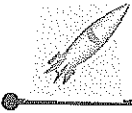
健康・体力の維持増進を図るため、市民一人ひとりがスポーツや運動習慣を身につけることができるように運動の大切さを啓発し、年齢や生活の変化にあったスポーツの機会や場の提供の開発に努めます。



施策4 スポーツ・レクリエーションへの参加の促進

- ①阿武隈リバーサイドマラソン大会や体育協会が開催する各種競技会を通して、スポーツに参加する機会を提供するとともに、スポーツ活動の情報提供に努めます。
- ②ニュースポーツの普及活動や短期の体験活動や教室を支援し、参加しやすい企画を進め機会づくりに努めます。





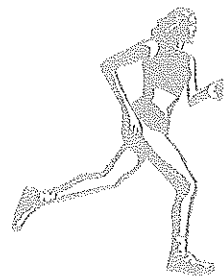
施策5 健康・体力維持向上・疾病予防のための スポーツ・運動の推進

- ①手軽にできるウォーキングや健康体操、各種スポーツ教室などの、スポーツや運動を行うきっかけづくりを提供していきます。
- ②総合型地域スポーツクラブなどを活用し、スポーツや運動を継続して行うことができる環境づくりを推進していきます。
- ③メタボリックシンドローム(代謝症候群)やロコモティブシンドローム(運動器症候群)などの疾病予防の面からも捉え、各種運動教室や食生活指導講座など、生活習慣の見直しを図るとともに、運動習慣を身につけることを推奨します。
- ④働く世代の女性の「する」「みる」「ささえる」スポーツへの参加を促進するための環境の整備を図ります。また、女性指導者の増加に取り組むとともに、スポーツ団体における女性登用を促進します。



施策6 スポーツ活動の機会の創出と交流の促進

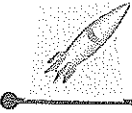
- ①気軽に体を動かし楽しみながら世代間の交流を深めることができるニュースポーツやレクリエーション活動の普及や機会の拡充に努めます。
- ②日ごろ運動習慣の少ない方やスポーツの初心者の方などにニーズに応じて「する」「観る」「支える」機会を関係団体と協力して機会の拡充を図ります。
- ③スポーツ活動への参加の低い世代への推進強化を図るため、各企業と連携し、スポーツ情報の提供やサークル育成等の促進を図ります。



(3) 高齢者のスポーツ活動の推進

施策の方向

年齢・体力に応じた健康維持のための講習会やイベント及びスポーツ大会の開催や、高齢者が生きがいを持った生活が送れるよう環境づくり・居場所づくりを支援し、健康寿命(元気に暮らすことができる期間)の延伸を図ります。



施策7 高齢者団体の主催する講習会やイベント 及びスポーツ大会への参加促進

- ① 各種目の全国マスタース大会や全国健康福祉祭(ねんりんピック)等への参加を支援し、高齢者スポーツの活性化を図ります。
- ② 高齢者団体が自主的に企画運営する講習会やスポーツ大会を支援します。



施策8 高齢者の健康・体力づくりの推進

- ① 高齢者が健康で生き生きした生活が送れるように、健康・体力づくりへの関心を深め、健康診断の受診率の向上や健康相談の拡充を図ります。
- ② 体力に応じたニュースポーツやレクリエーション、手軽に始められるウォーキング等を推奨し、普及活動に努めます。
- ③ スポーツや運動に関わる運動機能の維持向上を図る教室や栄養講座、体力テスト等を普及していきます。

(4) 障害者のスポーツ活動の推進

施策の方向

障害者の健康増進や社会参加の促進、心と体の健康づくりを支援します。また、市民の障害者に対する理解を促進するために、親善大会等の開催を図ります。



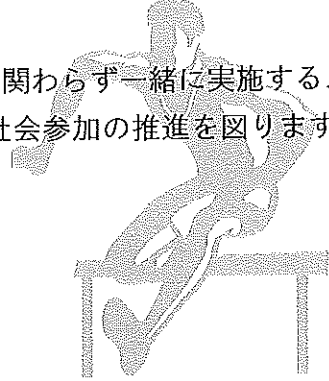
施策9 障害者のスポーツ環境の充実

- ① スポーツ施設が安全に利用できるよう配慮するとともに、心と体の健康づくりを支援し、スポーツの実施率の向上を図ります。
- ② スポーツ・運動に一層親しむために、障害者スポーツ指導員の養成に努めます。
- ③ 障害のある人もスポーツに取り組めるように、施設・設備の改善を進めます。
- ④ 障害者スポーツ団体の組織体制の整備を支援するとともに、各種スポーツ団体における障害者スポーツ導入のための取組みを支援します。



施策10 スポーツ大会・レクリエーションへの参加促進

- ①積極的に各種大会に参加することを支援するとともに併せて、気軽に参加できるレクリエーション活動を推進します。
- ②市民の障害者に対する理解を深め、障害のあるなしに関わらず一緒に実施するスポーツ・レクリエーション活動を支援し、障害者の社会参加の推進を図ります。



地域に夢と活力をもたらすスポーツ交流の促進

市民が一体となり参加・応援ができる地域・学校・団体が主催するスポーツ事業を推進するとともに、スポーツ・運動を通じて地域間の交流が活発化するスポーツイベントやスポーツ大会の支援や招致に努めます。

(1) 市民参加型のイベントスポーツ活動の推進

施策の方向

スポーツや運動はお互いの連帯感を産む作用があり、連携を深めるためにも、地域・学校・スポーツ団体・自治会等が連携を取り、市民がスポーツを通じて交流ができる場をつくれます。



施策11 市民参加のイベントの推進

- ①市民や経済界を含めた支援活動を拡大し、関係団体とともにスポーツや健康推進のイベントの充実を図ります。
- ②誰もが気軽に参加でき、コミュニケーションを育むことができるニュースポーツやレクリエーションスポーツの普及に努め、参加者・愛好者の増員拡充を図ります。

施策12 総合型地域スポーツクラブの充実

- ①市民が生涯にわたりスポーツを気軽に楽しむ環境づくりを推進するため、総合型地域スポーツクラブの活動を支援していきます。また、クラブに必要な人材の育成をサポートし普及・啓発に努めます。
- ②公共の施設を活用した中で、定期的、継続的に市民にスポーツや運動の拠点となる場を提供し、各種団体の参画を推進し地域で支える運営体制の構築を支援します。

施策13 スポーツ行政の改革

- ①行政主導のスポーツ大会やスポーツ事業の見直しも含め、市民や競技団体の主体的な活動を支援するよう検討していきます。
- ②地域づくりや健康づくりなどスポーツの持つ多様な力を発揮するため、地域づくり、健康・福祉、観光・商業等の部署との連携を深める体制を整えます。また、必要に応じて市民を交えた協議会等の設置を検討します。
- ③スポーツ事業を推進する地域振興公社や体育協会等の運営や主体的活動を支援し、広範囲の分野と連携を図りながらまちに活力が生まれるよう改善していきます。

(2) スポーツコミッション・スポーツツーリズムの推進

施策の方向

広域なスポーツ大会や競技レベルの高いスポーツ大会を開催・誘致することは、スポーツに親しむ人の増加や本市の魅力を全国に発信する機会にもなります。加えて、各地方から選手や関係者・観光客などが訪れることで経済効果も期待できます。

「する」ことから「観る」ことで、スポーツに対する関心を高め、更に「支える」ことでスポーツに親しむ機会の拡大と仲間づくりの推進に取り組みます。

※スポーツコミッション：地域のスポーツ施設やボランティアを最大限に活用して、スポーツのイベントの誘致や企画・運営から都市・地域のプロモーション、地域経済の活性化を図っていく取組み

※スポーツツーリズム：スポーツイベントを単に観に行くだけでなく、周辺観光やその地域の人々との交流も加味した旅行スタイルのことで、観戦プラス観光で新たな行動喚起と消費拡大を図る取組み



施策14 観戦スポーツ及びトップアスリートとの出会いの推進

- ①観るスポーツとしてプロスポーツ観戦やハイレベルな試合観戦は、市民に感動や興奮をもたらし、スポーツの関心を高め生活に潤いをもたらします。関係団体と連携し、市民や企業の協力のもと大会の誘致や開催に努め「観る機会」の充実を図ります。
- ②トップアスリートによる講演会やスポーツ教室を開催し、市民とのふれあいや夢や希望を育む機会を創出します。



施策15 スポーツ交流の促進

- ①各競技団体や機関が開催する交流大会等を支援し、競技力の向上を図るとともに、スポーツによる親交や相互理解を促進し、まちの活性化を図ります。
- ②競技大会開催時に市内の観光や物産施設、宿泊施設などの関係機関との連携を図るとともに、スポーツボランティアの活用等を推進し、地域の活性化に繋がる施策と研究を進めます。
- ③ 角田市のスポーツ資源、観光資源にあったスポーツツーリズム（かくだ版スポーツツーリズム（※））を調査・分析し、それに基づく「かくだ版スポーツコミッション」の取組みを推進します。

※かくだ版スポーツツーリズム：角田市を含む市内の主要団体で構成するChallengeMillion2016 協議会が策定した「スポーツと道の駅の連携のあり方についての調査分析報告書（平成29年3月）」及び「スポーツと道の駅の連携推進アクションプラン」（平成29年11月）を基本的な方向性とし、かくだスポーツビレッジと隣接する道の駅かくだの特色を生かしたスポーツツーリズムの推進を図る取組みを指します。

（3）競技スポーツの支援

施策の方向

本市出身の選手やチームが全国等で活躍することは、市民にとっても誇りであり、スポーツへの意欲や関心を高める機運となります。市民が気軽に取り組める生涯スポーツの推進とともに、高い技術の習得を目指した競技スポーツを支援します。



施策16 競技力向上を図る競技団体の支援

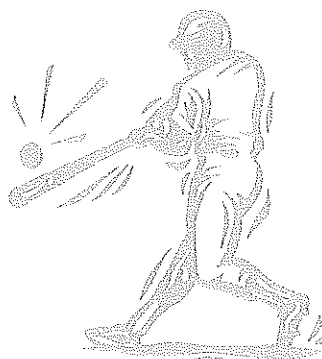
- ①本市を代表して活躍する優秀なスポーツ選手の顕彰・表彰・奨励金交付制度により競技意欲の高揚や競技力の向上を図りスポーツへの参加を推進します。
- ②研修会・講習会の実施や各種スポーツ団体が主催する競技大会やスポーツ教室を支援し、市民の競技スポーツ活動の機会の提供を図り、競技力の向上を進めます。
- ③様々な全国規模の大会や権威ある競技会等に参加する選手や団体を支援し、競技力の向上に努めます。

施策17 指導者の育成

- ①近隣の大学や、民間企業、スポーツクラブとの連携を図り、市民の競技力の向上や各団体の指導者の質の向上を図ります。
- ②スポーツの環境やニーズの変化に対応した指導者の育成を図るとともに、指導者の発掘と確保に努めます。

施策18 学校部活動の推奨と練習会や合宿の奨励

- ①大学や高校の競技力の高い運動部の練習会や合宿を誘致し、地元中学・高校との交流を通じて、レベルの高い内容に触れることによる競技力向上を図るとともに、地域の活性化にも繋がるように努めます。
- ②スポーツ少年団や地域のスポーツクラブの活動を支援し、競技力の向上を図るとともに、多様な社会に対応できる青少年の育成に努めます。





誰もが快適に親しむことができるスポーツ環境の整備

気軽にスポーツや運動に親しみ、ライフステージに応じた多様なスポーツ・運動活動の場や機会を充実させるため、公共施設の活用を促進させるとともに、スポーツ活動を支援するシステムや環境を整えます。

(1) 施設の有効活用促進と情報提供の整備

施策の方向

既存の体育施設の整備を図り、効率的な管理運営と利便性の向上を進め、多様化する市民のニーズに応え年間を通して自主的にスポーツに親しむことができるように場の提供に努めます。一方、学校体育施設等の整備を推進し、地域に開かれた施設としての有効活用を促進します。

また、スポーツ情報や健康づくりに関する情報の一元化とリアルタイムでの提供や収集に努めます。

施策19 学校体育施設の開放事業の充実

- ①運動場や体育館などの学校体育施設が、PTAや地域団体やスポーツ少年団等にとって、気軽に利用できる体制の維持に努め、身近な場所のスポーツ活動の確保に努めます。
- ②体育館やグラウンドの計画的な整備により、身近で親しみやすい環境の整備に努め学校開放事業を促進します。

施策20 市民のニーズに応じたスポーツ施設の整備

- ①近年、健康志向により増加傾向にあるウォーキング・ジョギング・サイクリング等に対応できる施設の整備を推進していきます。
- ②社会情勢や市民のニーズの変化を捉え、日常的にスポーツやレクリエーションに取り組める空間として、また、憩いの空間としての整備も推進します。



施策 21 施設の安全性と利便性の向上

- ①年間を通じて、多目的な施設の利用を進めるとともに、既存の施設の整備に努め、効果的・効率的な管理運営に努めます。
- ②誰もが快適にスポーツに親しめる施設となるように、財政状況を踏まえながら、利用者の意見を反映した施設改善に努めます。



施策 22 スポーツ情報環境の整備・充実

- ①広報誌は勿論、各競技団体や施設管理者に対してホームページの開設を推奨し、各種大会の開催や結果、イベント情報など積極的に発信できる環境づくりに取り組みます。
- ②本市のホームページでは、スポーツに関する情報提供に努めていますが、今後も更に検討を加え、分かりやすく一元化した情報の提供に努めます。



(2) スポーツ活動の支援体制の充実



施策の方向

市民がスポーツを継続的に行うためには、適切な指導者や大会を運営するボランティアなどの人材が必要です。また、スポーツ活動を支える人材の育成や関係団体連携の強化など、市民が参加しやすい事業の支援と充実を図っていきます。



施策 23 スポーツ指導者の増員と質的向上と活躍の場の充実

- ①スポーツ経験者や健康に関する知識を持った人が(仮称)スポーツ活動人材バンク等に登録することでイベントやスポーツ教室の折に、講師やアドバイザーとして活用するシステムを構築します。
- ②地域のスポーツ・レクリエーション活動の活性化を図るため、調整できる人材の育成のための研修会等の開催をすすめ、質の高い指導者の育成に努めます。
- ③スポーツ推進委員が地域において関係団体との連絡調整、実技指導、助言等の活動により地域スポーツの活性化を図ります。



施策24 スポーツボランティアの育成

- ① 体育協会やスポーツ推進委員と連携した活動の場を提供し市内の大会やイベント等での活動の場を創出し、参加促進を図ります。また、社会福祉協議会と連携し、活動に関する情報提供や各種研修会を通して普及を図ります

施策25 スポーツ団体・健康推進団体の育成及び支援

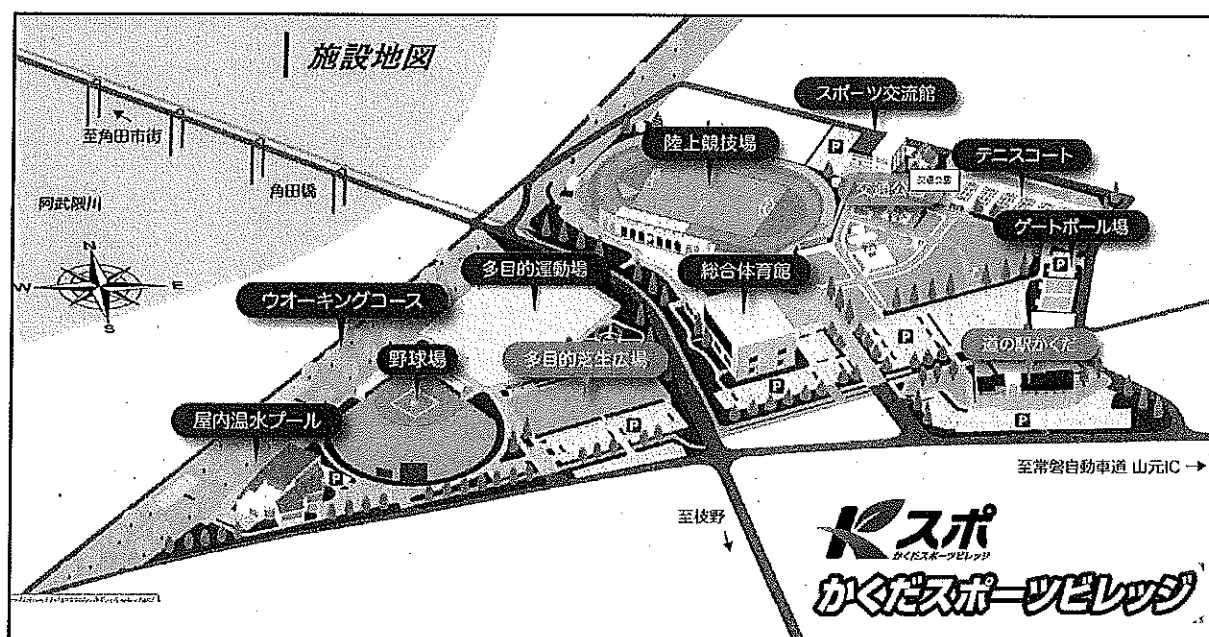
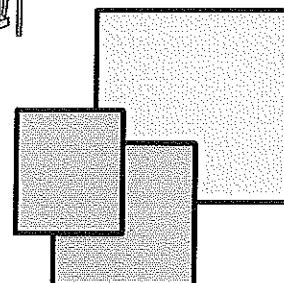
- ① 体育協会をはじめとする各スポーツ団体や健康推進団体等と相互の連携や協働を図り、スポーツ大会・教室や健康講座などの充実に努め、各団体の自主的な活動を支援します。
- ② スポーツ団体が実施する各種スポーツ大会へのビジネス手法導入による新たな収益事業の創出等への支援などを通じて、スポーツ団体の組織基盤の強化を促進します。





第5章 アクションプランの基本方針

- 1 基本的な考え方
- 2 前期アクションプランの概要
- 3 前期アクションプランの実績と評価
- 4 後期アクションプランの概要



角田中央公園等のスポーツ施設一帯の愛称とロゴ（H30.3 決定）

10年間で計画を実現するための具体的な方策について、前期5年と後期5年に分けて策定するアクションプランの基本方針を定めるものです。



第5章 アクションプランの基本方針

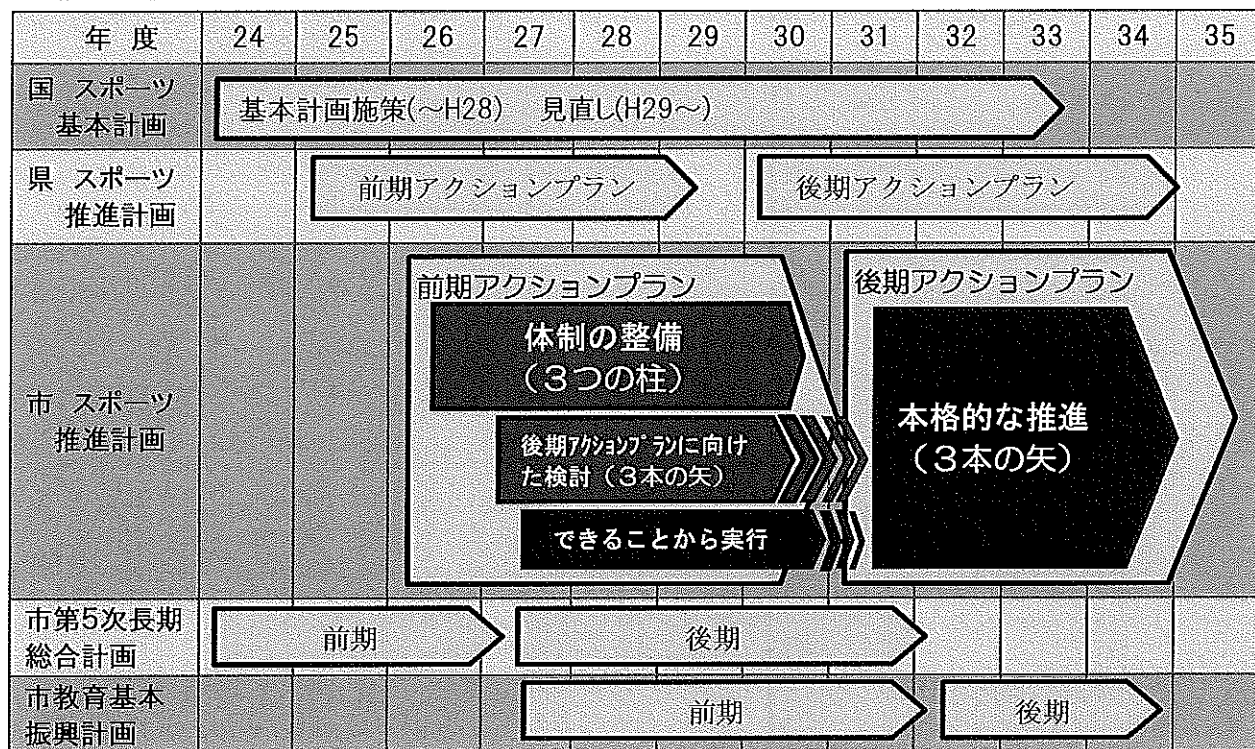
1. 基本的な考え方

本計画を10年間で実現するためには、優先度が高い取組みについて効果的かつ効率的に実施していくことが必要です。

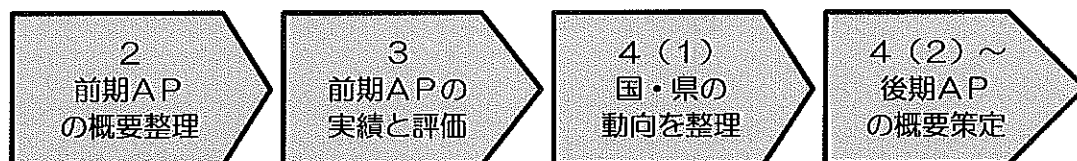
そのために、計画期間の10年を5ヵ年ごとに区分し、まず「前期5年間」では『体制の整備（3つの柱）』に関連する施策を重点施策と位置づけ、計画を推進する体制をしっかりと整備し、その後「後期5年間」では計画の『本格的な推進（3本の矢）』を図ることとします。

さらに、着実に計画を実行するために、具体的な取組み内容、評価方法を前期・後期アクションプランとして別にまとめることとし、その概要を次の流れで整理いたします。

<前期・後期アクションプランのイメージ図>



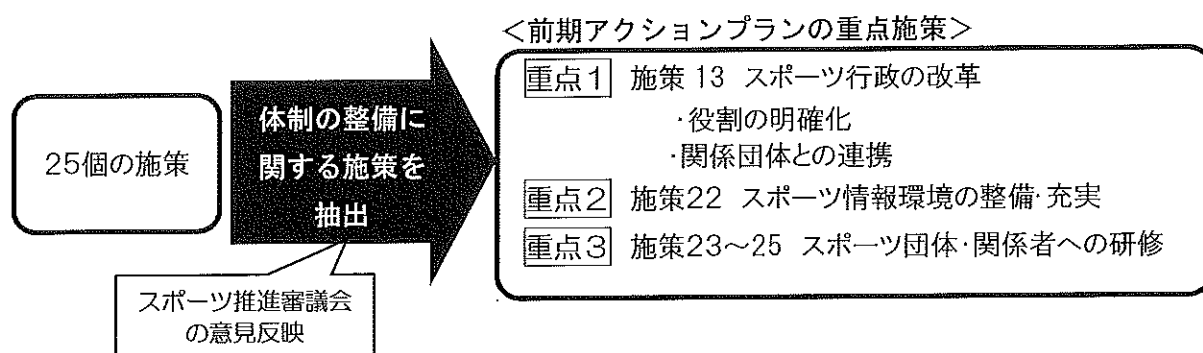
<前期・後期アクションプランの方向性を整理する流れ>



2. 前期アクションプランの概要

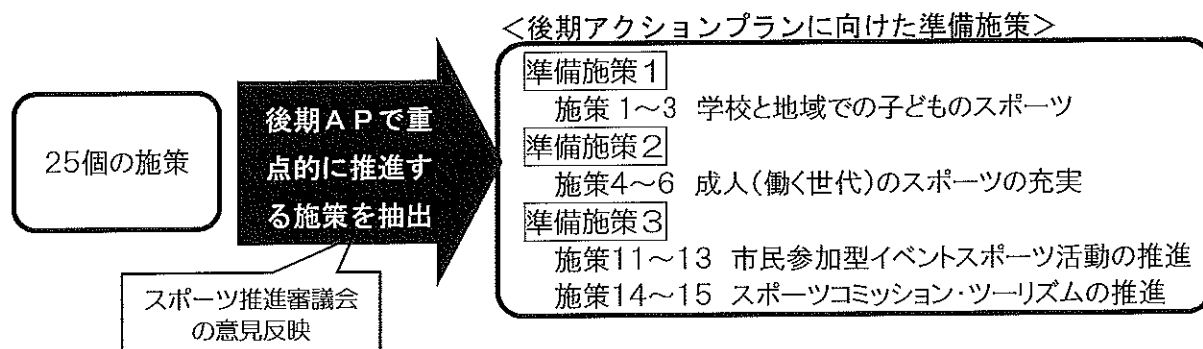
(1) 3つの重点施策（3つの柱）

前期アクションプランでは、計画を効果的で、効率的に実施するために25施策のうち、計画を推進するための『体制の整備に関する施策』を重点施策とし、集中的に取り組みます。



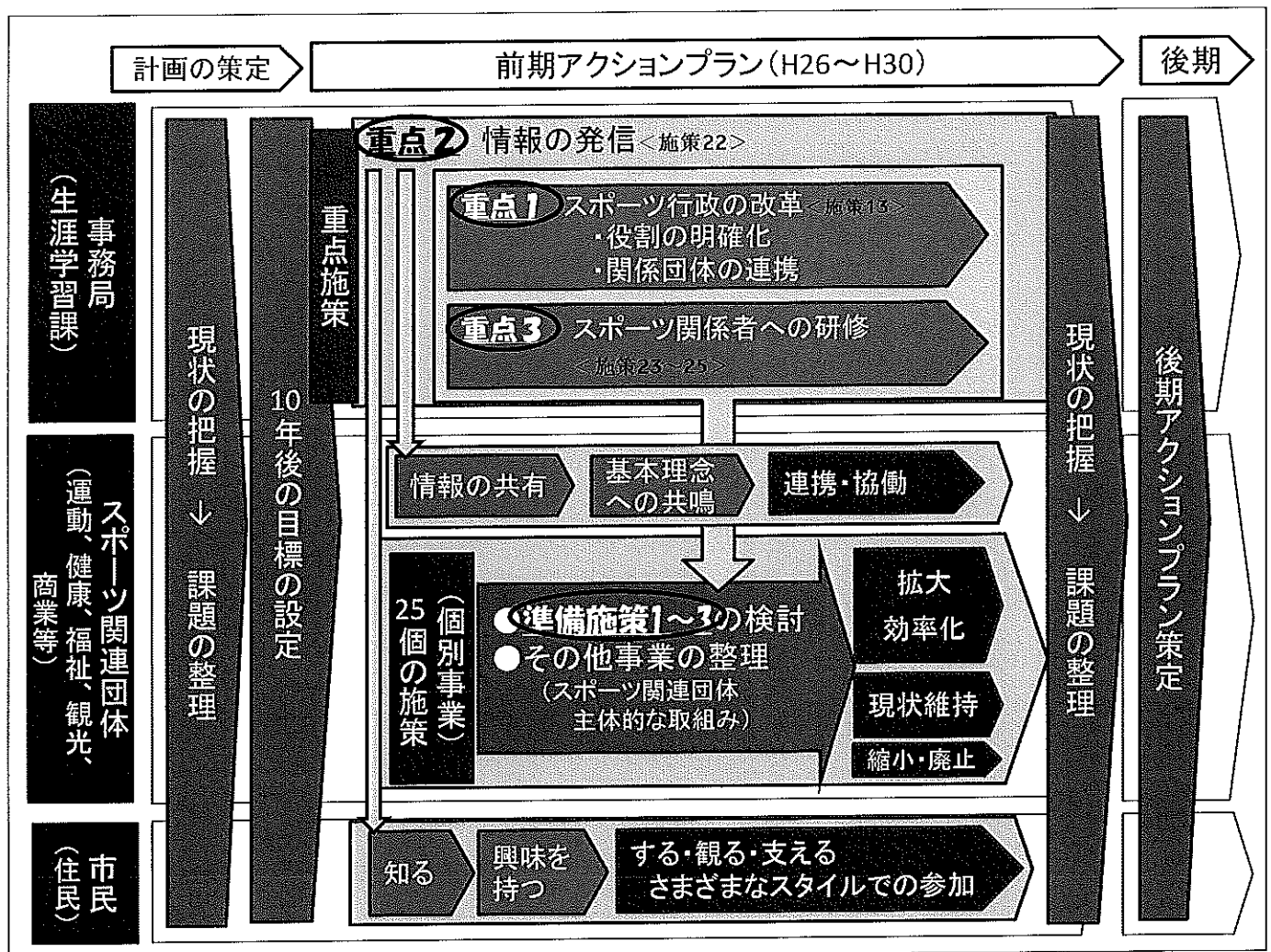
(2) 後期APに向けた準備施策（3本の矢）

後期アクションプランでは、計画の『本格的な推進』に取り組むこととしております。そのため、前期アクションプランでは、25施策のうち後期アクションプランで重点的に推進する施策を「準備施策（3本の矢）」として選択し、優先的に現状把握・課題分析を行い今後のあり方を検討いたします。これにより後期アクションプランが初年度から円滑に実行できるような環境を整備します。



(3) 重点施策と各施策との関連について

重点施策を、事務局である生涯学習課を中心に実施します。それにより、スポーツ関連団体へ本計画（基本理念）の浸透をはかり、各事業の整理を主体的に行う風土を醸成し、本計画を実施していく体制の整備を目指します。



なお、重点施策（3つの柱）と準備施策（3本の矢）を計画全体における位置づけを一覧表で整理すると次のとおりとなっております。

<計画の全体像>

□・・・前期アクションプランでの3つの重点施策（3本の柱）を示します。

□・・・後期アクションプランに向けた準備施策（3本の矢）を示します。

基本目標	現状・課題	9つの施策の方向	25個の施策	9つの数値目標
ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	子どものライフスタイルの変化 角田市の小中学生の運動能力が全国平均を下回る	・学校と地域におけるスポーツの推進	1 児童生徒の健康な身体作り 2 学校体育の充実 3 社会スポーツ環境の充実	① 週2回以上運動を行う人(20歳以上)の割合 男 30%⇒41% 女 26%⇒49%
	働く世代のスポーツを行う機会、時間の減少	・成人(働く世代)スポーツ活動の推進	4 スポーツ・レクリエーションへの参加促進 5 健康維持・体力向上・疾病予防のためのスポーツ推進 6 スポーツ活動の機会創出と交流の促進	② 新体力テストにおける値が全国平均値以上の項目数 0～3⇒4項目
	スポーツによる健康増進効果への注目	・高齢者のスポーツ活動の推進	7 高齢者団体の主催するスポーツ大会への参加促進 8 高齢者の健康・体力づくり推進	③ 総合型地域スポーツクラブの会員数 全体 400人⇒600人 みんなの教室 323人⇒490人
	高齢化時代へ突入、医療費等の増大 障害者のスポーツ参加支援の必要性が高まる	・障害者のスポーツ活動の推進	9 障害者スポーツ環境の充実 10 スポーツ・レクリエーション大会への参加促進	④ スポーツ少年団の団数と団員 430⇒400 団員 26⇒25 団
地域に夢と活力をもたらすスポーツ交流の促進	地域コミュニティの希薄化	・市民参加型のスポーツイベント活動の推進	11 市民参加型のイベントの推進 12 総合型地域スポーツクラブの充実 13 スポーツ行政の改革	⑤ 人々が交流する大会開催・誘致数(全国・プロ) 3⇒5～6試合
	スポーツによるコミュニティ機能、地域活性化機能への注目	・スポーツコミッション・スポーツツーリズムの推進	14 観戦スポーツ・トップアスリートとの出会いの推進 15 スポーツ交流の促進	⑥ 阿武隈リバーサイドマラソン大会の参加数 2,300⇒2,500人 市内 623⇒1,000人
	東京一極集中による地方消滅の危機	・競技スポーツの推進	16 競技団体の支援 17 指導者の育成 18 学校部活動の推奨	⑦ 市内大会以上の規模の大会の開催数 130⇒135試合
	競技スポーツの支援体制の未整備			
誰もが快適に親しむことができるスポーツ環境の整備	ライフスタイル、個別のニーズの多様化 施設の老朽化	・公共施設の有効活用と情報提供の整備	19 学校体育施設の開放事業の充実 20 市民のニーズに応じたスポーツ施設の整備 21 施設の安全と利便性の向上 22 スポーツ情報環境の整備・充実	⑧ 公共スポーツ施設の、年間延利用者数 210,000⇒270,000人
	指導者の高齢化	・スポーツ活動の支援体制の充実	23 スポーツ指導員の増員と指導者の質的向上 24 スポーツボランティアの育成 25 スポーツ団体・健康推進団体の育成及び支援	⑨ 阿武隈リバーサイドマラソン大会ボランティア数(実行委員会構成団体以外の者) 50人⇒150人
	スポーツに期待される役割、機能の拡大に伴う知識、人材の不			

3. 前期アクションプランの実績と評価

(1) 3つの重点施策(3つの柱)

前期アクションプランにおける3つの重点施策(体制の整備)の実績・その評価は下表のとおりです。さらに、後期アクションプランで取り組むべき方向性も示しております。

重点施策(3つの柱)の実績(D)	評価
1 3 スポーツ行政の改革 ■組織見直し ・H26～スポーツ事業を公社へ移管、農業改善センターをスポーツ交流館へ変更 ・H28～スポーツと道の駅の連携のために ChallengeMillion2016 スポーツ専門部会設置 ・H30～教育機関の機能強化(総合体育館・スポーツ交流館の役割・業務を明確化。土日対応強化) ■民間活力の積極活用 ・H29～リハ・サイトマラソン事務の外部委託拡充 ・H30～スポーツ交流館のソフト事業をスポコムへ委託 ・H30～自動販売機の入札導入、総合体育館を新電力へ切替 ■財政基盤の強化 ・H28～各種補助金・交付金の積極活用 ・H29～使用料の見直し(H29 陸上、H30 交流館宿泊料(減免))	○ ■計画を推進するための体制の整備が一定程度図れた。 ■特に ChallengeMillion2016 におけるスポーツと道の駅との連携により、地域活性化、コミュニティ機能面でスポーツに広がりができる ■H31以降はさらに、健康・介護分野との連携が必要 ■使用料の額、減免制度について検証が必要
2 2 スポーツ情報環境の整備・充実 ■H28～スポーツ情報誌(スプレ)を関係団体連携のもと定期的に発行(計16,000部を年7回。市内全戸、丸森小中学校配布) ■H26～ホームページの整備・充実(H26 公社、H29 スポコム・リハ・サイトマラソン、H30 Kスポのサイト開設) ■H30～中央公園に愛称を設定し、スポーツ情報の一元的な発信を開始	○ ■情報環境の整備は十分に行われたが、市民・地域を巻き込んで計画を推進するための情報発信まで至らなかった。 ■H31以降は、Kスポ・サイト、道の駅のサイネージを活用した情報の一元的発信の充実が必要
2 3～2 5 スポーツ団体・関係者の育成 ■H28～市体育協会、CM2016でスタッフ育成研修会の開催 ■H30～スポーツ交流館でスポーツ活動の支援開始	▲ ■団体・関係者の育成に努めたが、後継者育成まで至らなかった。

公社…(公財)角田市地域振興公社

スポコム…NPO 法人スポーツコミュニケーションかくだ

後期アクションプランにおける方向性

- ・前期アクションプランにおいて重点施策として取り組みましたが、まだ上記のとおり課題も多いことがわかりました。



- ・本格的な事業推進を目指す後期アクションプランにおいても、「実施体制の整備」は引き続き重要であり、継続した取り組みが必要である。

(2) 後期APに向けた準備施策(3本の矢)

前期アクションプランにおける「後期アクションプランに向けた3つの準備施策の実績・その評価は下表のとおりです。さらに、後期アクションプランで取り組むべき方向性も示しております。

準備施策(3本の矢)の実績(D)	課題と今後のあり方	背景にあるスポーツの新たな定義・価値
施策1～3 学校と地域での子どものスポーツ活動の推進 ・H30 課題を整理し、今後のあり方を検討	<課題> ・スポーツをする子としない子の2極化 ・家庭環境が原因で、スポーツをしていない子どもがいる。 <今後のあり方> ・地域と学校の連携による学校を活用した取組みの検討 ・子供がスポーツに親しめる家庭環境の醸成	スポーツ ＝ 日常の中で 楽しみながら 体を動かすことす べて スポーツによる ・健康増進効果 スポーツによる ・地域経済活性化 機能 ・コミュニティ 機能
施策4～6 成人(働く世代)のスポーツの充実 ・H28 課題整理 ・H29 健康ポイントをスポーツ分野へ拡大 ・H30 Kスポとウエルパークの連携拡充	<課題> ・20～50代(特に男性)の参加が少ない。 <今後のあり方> ・Kスポとウエルパークとの連携強化 ・親子対象事業や企業との連携(スポーツ情報の提供、サークル育成の促進)	
施策11～13 市民参加型イベントスポーツ活動の推進 施策14～15 スポーツコミッション・ツーリズムの推進 ・H28 ChallengeMillion2016においてスポーツと道の駅の調査分析報告書作成 ・H29～同アクションプランを作成し事業の実施	<課題・今後のあり方> ・スポーツと道の駅の連携推進アクションプランで定めた事業を、限られた資源(予算、人手)で行うための創意工夫が必要	

後期アクションプランにおける方向性

- ・前期アクションプランにおいて準備施策として取り組みましたが、上記のとおり準備が進んだ施策もあれば、進まなかった施策もありました。
 - ・それぞれの施策は、国が第2期基本計画で示した「スポーツの新たな定義・価値」と密接に関係があり、関係機関との連携が重要であることがわかりました。
- ↓
- ・後期アクションプランにおいて円滑に施策推進を図るためには、「今までのスポーツの枠組みを超えた連携」が必要。そのためには、国が第2期基本計画で示した「スポーツの新たな定義・価値」を浸透させ、みんなで計画を推進する風土の醸成が必要である

4. 後期アクションプランの概要

(1) 前期期間における状況変化・課題の整理

角田市がスポーツ推進計画を平成26年3月に策定した以降の国・宮城県の状況、さらに前期アクションプランにおける課題を整理いたします。

1

国の第2期基本計画（H29～33）

平成29年3月を策定し「スポーツ参画人口」を飛躍的に拡大し、他分野との連携・協力により「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むことを基本方針としており、地方自治体にはスポーツを通じた健康増進、共生社会の実現や経済・地域活性化など、活力ある社会づくりに関係部署・団体が一体となって取り組むことが期待されました。

2

宮城県のスポーツ推進計画（H25～H34）

平成30年2月に後期アクションプラン（H30～H34）を策定し国の第2期基本計画を反映しております。

3

角田市の前期アクションプラン（H26～30）

重点施策（3つの柱）により、計画を推進するための体制の整備が一定程度図れるなど成果が出ているものの、「スポーツ団体を支える後継者の育成」や「市民・地域を巻き込んで計画を推進するための情報発信（風土醸成）」など、課題があることがわかりました。

また、後期アクションプランにむけた準備施策（3つの矢）では、準備が進んだ施策もあれば、準備が進まなかった施策もあり、準備が進まなかった原因として、「社会体育の枠を超えた連携」が必要で、そのために、まず、国が第2期基本計画で示した「スポーツの新たな定義・価値」を浸透させ、みんなで計画を推進する風土醸成に取り組む必要があることがわかりました。

(2) 後期アクションプランの構成(3つのプロジェクト)

上記(1)を踏まえ、後期アクションプランでは次の3つのプロジェクトにより構成することとし、効果的な計画推進を図ります。

1

みんなで取り組む風土醸成プロジェクト(新)
(3つの土台)

2

推進体制の整備プロジェクト(継続※)
(3つの柱) ※前期の重点施策の継続

3

本格的な事業推進プロジェクト(拡充※)
(3本の矢) ※前期の準備施策を格上げ

(3) みんなで取り組む風土醸成プロジェクト(3つの土台)

国が示す新たなスポーツの定義・価値の浸透を図り、市民・地域を巻き込んでみんなで計画を推進するための風土を醸成する取組みを「風土醸成プロジェクト(3つの土台)」として新たに取組みます。

これにより25個の施策を効率的に実施するための環境(土台)を整備します。

1

スポーツの新たな定義・価値の浸透

- 新たな定義 「スポーツ」:日常の中で楽しみながら体を動かすことすべて
- 新たな価値 健康増進効果、地域経済活性化、コミュニティ機能

2

今までのスポーツの枠組みを超えた積極的な連携

3

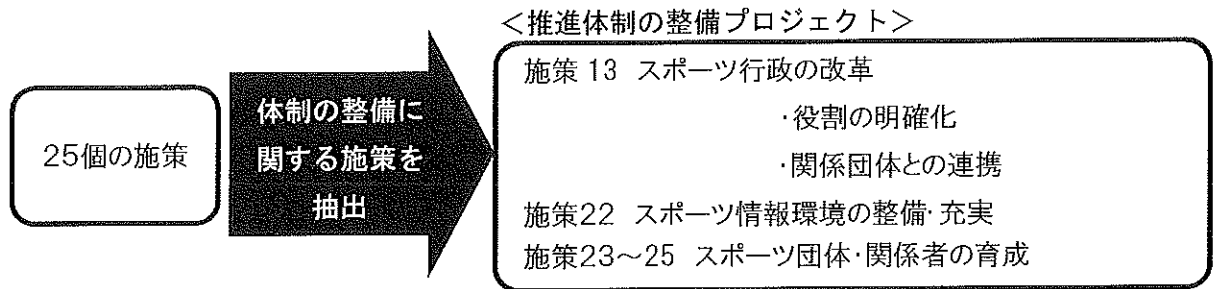
オリパラ等※によるスポーツへの関心の盛り上がりを契機に
全ての市民がスポーツ参画するきっかけ創出

ここでオリパラ等とは角田市のスポーツ環境をとりまく次の内外的要因を指します。

- 2020東京オリンピック・パラリンピックムーブメント
- 全日本女子車いすバスケットボール角田合宿の開催
- かくだスポーツビレッジと連携した道の駅かくだの開設

(2) 推進体制の整備プロジェクト(3つの柱)

前期アクションプランで重点施策として取組んだ「体制の整備に関する施策」を引き続き、集中的に取り組めます。



なお、前期アクションプランの実績・評価、国・宮城県の動向を踏まえ、後期アクションプランにおける方向性は次のとおりとします。

1

スポーツ行政の改革

■事務の効率化・見直し

後期アクションプランで本格的な事業推進を図るため、スポーツ推進計画の推進体制を強化していきます（地域づくり、健康、福祉分野などの関係団体との連絡調整機能の強化、スポーツ推進委員のあり方検討など）。

■財政基盤の強化

受益者負担の適正化の観点からスポーツ施設の使用料の見直しを行います。また市内の小中学校をスポーツ活動に開放している学校開放事業における利用者負担のあり方を検討します。

2

スポーツ情報環境の整備・充実

現在、関係団体の連携により定期的に発行しているスポーツ情報誌（スポーツプレスかくだ）の発行回数を増したり、平成30年度に開設したかくだスポーツビレッジの公式サイトを本格運用し、スポーツ情報環境の充実を図ります。

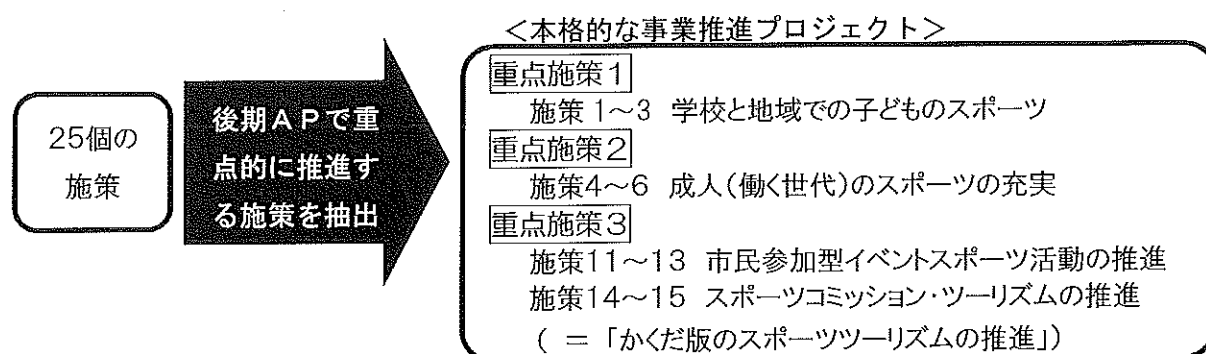
3

スポーツ団体・関係者の育成

教育機関であるスポーツ交流館、総合体育館において教育機能の強化を図ります。特にスポーツ交流館では、前期アクションプランで課題となったスポーツ団体・関係者の後継者育成に取り組めます。

(3) 本格的な事業推進プロジェクト（3本の矢）

後期アクションプランでは、前期アクションプランで優先的に現状把握、課題分析を行い今後のあり方について検討した「準備施策（3本の矢）」を『本格的な事業推進プロジェクト（3本の矢）』として拡充し、計画の本格的な推進を図ります。



なお、前期アクションプランの実績・評価、国・宮城県の動向を踏まえ、後期アクションプランにおける方向性は次のとおりとします。

1

学校と地域での子どものスポーツ活動の推進

課題を整理し今後のあり方を検討します。

＜今後の方向性＞

- ・ 地域と学校の連携による学校を活用した取り組み
- ・ 子どもがスポーツに親しめる家庭環境の醸成

2

成人（働く世代）のスポーツ活動の充実

かくだスポーツビレッジ（総合体育館をはじめとする各種スポーツ施設一体）とウエルパーク（総合保健福祉センター）のそれぞれが担う業務における積極的な連携により効果的な事業推進を図ります。

また、親子を対象とした事業や市内企業との連携による働く世代のスポーツ事業について検討します。

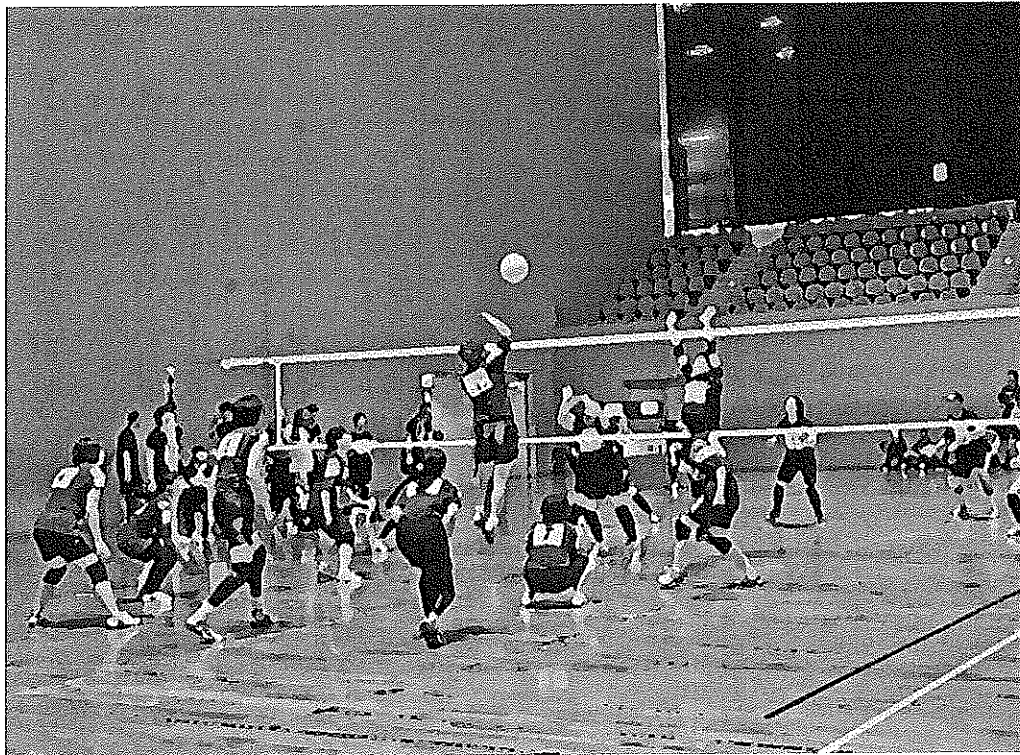
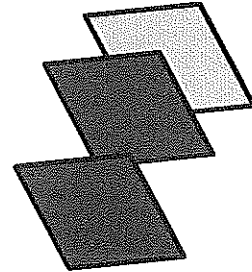
3

かくだ版のスポーツツーリズムの推進

ChallengeMillion2016 が策定した「スポーツと道の駅の連携のあり方についての調査分析報告書」に基づく「スポーツと道の駅の連携推進アクションプラン」（平成29年11月策定）を基本的な方向性とし、かくだ版のスポーツツーリズムの推進を図ります。

第6章 計画の進行管理

- 1 計画の進行管理
- 2 関係部局との連携



スポーツレクリエーション祭より

Plan Do Check Action サイクル

政策立案された計画を、政策実施においては、予算や人材などの限られた行政資源を有効活用しながら、事業を効率よく実施します。

政策評価・診断においては、住民生活の満足度や成果を客観的に評価・検証します。

政策改善においては、評価結果に基づき施策や事業、予算及び実施体制等の改善を行い、説明責任を果たします。

以上、連続したPDCAサイクルを行い取り組むものです。



第6章 計画の進行管理

1. 計画の進行管理

本計画に定めた目標や施策の進捗状況の把握や点検を Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(処置)により適切に行います。また、角田市スポーツ推進審議会に報告し、各専門分野の立場から意見を聴取し、適切な事業の進行管理を行っていきます。

なお、計画の進行管理を着実にを行うため、評価の具体的な方法、評価シート等をアクションプランで整理します。

2. 関係部局との連携

市民の運動・スポーツ活動、健康・体力づくりを目的とした事業は、行政や関係団体等でも実施しています。また、スポーツを通じたまちづくりは様々な領域を含み他の部局の関連計画との整合性を図ることが必要になってきます。関係部局や団体との連携を深めるとともに、情勢の変化にも対応し、より効果的・効率的にスポーツの振興を推進します。

